

令和5年度文部科学省指定事業

WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業

『やまなし創世』に資する AL ネットワークの構築



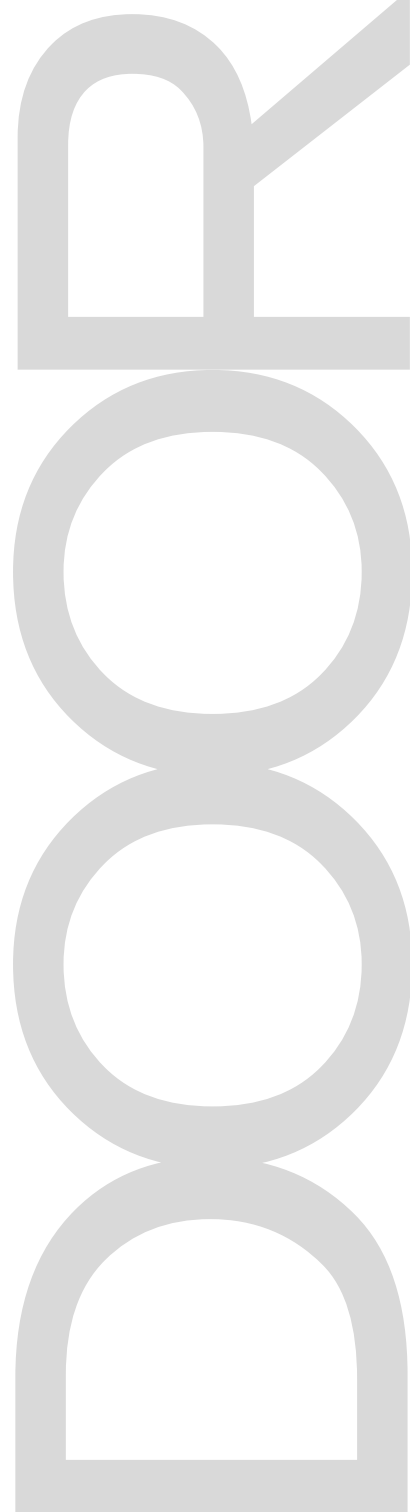
山梨県立甲府第一高等学校



令和5年度

研究開発実践報告書

第1年次



「やまなし創世」に資するALネットワーク

DOOR 一扉を開いて



ALネットワーク (アドバンスド・ラーニング)



山梨から世界を変えていく人材

- ・常に問題意識を持ち多様な人々と新たな価値を共創する人材
- ・グローバルな視野を持ち持続可能な社会づくりを牽引する人材
- ・具体的な提案や活動により「やまなし創世」に貢献する人材

中長期目標
やまなし創世ネットワーク創設
国境を越えた合同カリキュラムの実施
高校生国際会議の定期開催と海外実施
個別最適化した高度な学びのシステム構築

ALネットワークの構築・整備

- ・探究活動のデータベース化 (これまでの実績・ノウハウの共有)
- ・連携校専用サイトによる情報共有 (令和5年度開設)
- ・教員研修会の実施 (年1回以上の実施)

国境を超えたプログラム(拠点校)

- ・海外研修・短長期留学の再開
- ・海外連携校との合同プログラムの実施
- ・県内在住の大学留学生と英語で学ぶ授業・探究活動の実施

高校生国際会議開催に向けた準備(拠点校)

- ・先進校への視察、生徒実行委員会の設置
- ・令和6年度 ALネットワーク内での高校生国際会議の開催

高度な学びの提供(拠点校)

- ・JM00C等のオンライン講座の活用 (令和5年度より土曜学習会で開始)
- ・大学教育の先取り履修等の活用 (山梨県立大学 [PENTAS] の講座を活用した先取り履修の促進)
- ・大学協働機関からの高度な学びの提供 (山梨大学・山梨県立大学 [SPARC]、山形大学 [SEPS] と連携)
- ・アントレプレナーシッププログラムの活用 (山梨県立大学 [PENTAS] ・山形大学 [i-HOPE] との連携)

令和7年度

- ・ALネットワークの拡大
国内連携校8校以上、海外連携校5校以上
- ・多様な合同プログラムの実施
海外連携校との合同カリキュラムの実施に向けて海外長期留学生の年間6名以上の受け入れ
- ・高校生国際会議の開催
グローバルな視点と英語で議論する力の向上
- ・探究深化(学校設定科目)の開設
個々のニーズに応じた高度な学びの履修システム構築

拠点校の実績

- SGH校 県内唯一の探究科
地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローバル型)
- ・「グローバル探究」の開発研究 (9年間)
 - ・産学官民のコンソーシアムの構築
 - ・ブランドサミットの実施「探究科2年生は英語成果発表」

課題

- ・教員間での目的やノウハウの共有
- ・探究を深化させる高度な学びの提供
- ・コロナ禍で国際交流の機会の減少
- ・英語で議論する力の育成

アップデート

- ・探究顧問研修会の実施
- ・大学教育の先取り履修とJM00C等のオンライン講座の活用
- ・海外研修の再開、県内在住の大学留学生との合同授業の実施
- ・高校生国際会議の開催、海外連携校との合同プログラム実施



目 次

はじめに

第1章 研究開発の概要

1. 研究開発構想名	1
2. 研究開発の目的・目標	1
3. 研究開発の概要	1
4. 学校の概要	2
5. 年間計画	3

第2章 課題研究の実施報告	8
---------------------	---

第3章 実施の効果とその評価

1. 年度末アンケートの結果	30
----------------------	----

- ※ 令和5年度「山梨ブランドサミット」探究活動発表内容
- ※ 令和5年度 教育課程表

本報告書は各生徒が作成した原稿を中心に掲載しております。作成者の意図を尊重し、フォント・ポイント等書式については統一しておりません。ご理解くださいますようお願いいたします。

はじめに

本校は、1880（明治13）年に山梨県中学校として開校し、今年度創立143年となる山梨県では最も古い歴史を持つ高等学校です。これまでに3万人を超える卒業生を送り出し、各分野に有為な人材を数多く輩出してきました。

本校は、伝統に立脚しながらも常に時代の先を見据えた教育活動を展開し、1991（平成3）年には英語科を設置して世界的視野を持って社会に貢献できる人材の育成を実践いたしました。その後、更なるグローバル教育の進展を目指して2014（平成26）年にSGH(Super Global High School)の指定を受け、「主体的に課題を解決できる山梨発！グローバルリーダーの育成」をテーマに探究的な学びをスタートさせ、更に2016（平成28）年には英語科を探究科に改組して、主体的に課題を設定し探究する力を育くむ取組を本格化させました。2020（令和2）年には「地域との協働による高等学校改革推進事業グローバル型」の指定を受け、「『やまなし創世』に資するグローバルリーダーの育成」をスローガンに、地域の企業・団体・大学・自治体・近隣高校等で構成するコンソーシアムを立ち上げて外部機関との連携を強化しながら、生徒の主体的・体験的・継続的な探究活動推進によるグローバル人材育成の体制やプログラムの構築を進めてまいりました。

以上のような30年以上にわたるグローバル教育の実践を経て、2023（令和5）年度よりWWL（World Wide Learning）コンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定されました。

「山梨から世界を変えていくイノベティブでグローバルな人材」の育成をめざして、これまでの取組において構築してきた産学官民のコンソーシアムを発展・拡大し、新たに県内外の優れたコンテンツを備えた大学・企業・NPO等に加わっていただき、AL（Advanced Learning）ネットワークを構築して、カリキュラムの開発を進めて参ります。

1年目の今年度は、従来からの探究活動に取り組みながら、その成果のデータベース化と指導方法の共有を進めています。また、海外研修及び短期海外留学の再開や県内の大学留学生との交流、次年度の高校生国際会議開催に向けた試行等によって、国境を越えたプログラムの構築にも取り組んでいます。さらに、JMOOCの活用や県内外の大学との連携による大学教育の先取り履修等、高度な学びを可能にする体制づくりも進めているところです。

WWL事業への取組はまだ端緒に就いたばかりです。ひとつひとつの取組が生徒にとってより深い学び、より広い学び、より先の学びとなり、イノベティブでグローバルな人材の育成に繋がる実効的なものになるよう邁進して参ります。

結びに、本事業の計画・立案に御助言いただいた文部科学省の皆様、運営指導員の皆様、また、大きなお力添えをいただいておりますコンソーシアムの関係機関の皆様にご心より御礼申し上げますとともに、今後とも本校の取組に御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

令和6年3月

山梨県立甲府第一高等学校
校長 安達 徹

第1章 研究開発概要

1 研究開発構想名

「やまなし創世」に資するALネットワークの構築

2 研究開発の目的・目標

Society5.0を牽引する人材育成に向け、本県では地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）の指定により、甲府第一高等学校を推進校に「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成に取り組んできた。これまでに構築した産学官民のコンソーシアムを発展・拡大し、新たに国内外の優れたコンテンツを備えた大学、企業、NPO法人等を加えてALネットワークを構築し、山梨の豊かな自然や産業と、そこに生きる人々の健康や教育などについて探究を深め、持続可能な社会づくりに向けて世界的な視野で自ら考え行動する「山梨から世界を変えていく人材」の育成を目指す。事業拠点校である甲府第一高等学校では、地域課題を手がかりに生徒の興味・関心に基づいてSDGsをテーマに探究活動を行い、さらに2030年以降の世界を見据えて自己の考えを発信する。特に、探究をより深い学びに結びつけることと英語で議論する力を育成するために、協働機関と連携し高度な学びを提供する環境づくりと、海外の企業、大学、高校との連携プログラムを実施する。さらに、拠点校におけるプログラムを連携校と共有する。これらの活動を通じて、「やまなし創世」に資するALネットワークを構築・整備し、「山梨から世界を変えていく人材」を育成する。

3 研究開発の概要

(1) ALネットワークの形成

本事業の実施を通し、拠点校のカリキュラムを県内連携校に普及するとともに連携校の拡大を図る。さらに、拠点校のカリキュラムを充実させるために、海外の連携校、国内外の協働機関の拡大を検討する。

(2) カリキュラムの研究・開発

①国境を超えた合同プログラムの実施

海外研修、短期・長期留学を再開し、現地で探究の成果を英語で発表し意見交換を行う。また、本事業で配置する外国人講師の指導のもと、海外連携校や県内在住の大学留学生と英語での合同プログラムを実施する。単なる交流で終わるのではなく、課題について各国のデータ比較・分析をしたうえでの意見交換や協働で課題解決に向けた計画の作成など、合同カリキュラムを見据えた連続性のある内容とする。これらを通して英語で議論する力とグローバルな視野を育成する。

②高校生国際会議開催に向けた準備

令和6年度の高校生国際会議の開催に向けて、ALネットワーク内に準備委員会

(教員)及び生徒実行委員会を立ち上げる。国内外の高校生が、SDGsの視点で設定したテーマについて、国や地域の枠を超え2030年以降の世界を見据えて英語でディスカッションし、多様な考え方や価値観を体験を通して学ぶ機会をつくる。

③個別最適化した学習システムの構築

拠点校において、生徒の探究を深めるための個別最適化学習システムの構築に向け、多様なニーズに応じた高度な学びを準備する。令和5年度から大学教育の先取り履修やJMOOC等のオンライン講座を試行的に土曜学習会に取り入れ、希望生徒に受講させる。同時に、高度な学びとそれを活用するためのカリキュラム開発を連携大学と進め、学校設定科目として令和7年度の開設を目指す。

④学校設定科目「グローバル探究」の開発・改善

本事業で配置される外国人講師の指導による海外連携校との合同プログラムを新たにカリキュラムに加える。また、英語で議論する力の育成に向けコロナ過で中断していた海外研修や短期留学を再開し、現地での発表と意見交換を目標に生徒たちに取り組みさせる。

4 学校の概要 (設置学科,生徒数等)

	機関名・学校名・情報						代表者・校長名	
管理機関	山梨県教育委員会						降旗 友宏	
事業拠点校	山梨県立甲府第一高等学校 (公立)						安達 徹	
		学科・コース名	1年	2年	3年	計		学校規模
	対象:	探究科	60	59	56	175		677
		普通科(一部プログラム)	160	174	168	502		
対象外:					0	0		
					0			
事業協働機関 (国内外の大学、企業、国際機関等)	①	山梨大学					中村 和彦	
	②	山梨県立大学					早川 正幸	
	③	山梨学院大学					青山 貴子	
	④	やまなしSDGs推進プラットフォーム					長田 公	
	⑤	NPO法人八ヶ岳SDGsスクール					丸茂 哲雄	
	⑥	シナプテック株式会社					戸田 達昭	
	⑦	一般社団法人Mt.Fujiイノベーションエンジン					岩崎 甫	
	⑧	山梨大学教育学部附属中学校					早川 健	
	⑨	山形大学アントレプレナーシップ開発センター					小野寺 忠司	
事業連携校 (国内外の高等学校等)	①	山梨県立笛吹高等学校 (公立)					廣瀬 志保	
	②	山梨県立甲府東高等学校 (公立)					中村 尚志	
	③	北海道北見北斗高等学校 (公立)					元村 治郎	
	④	Henley High School (オーストラリア) (公立)					Eddie Fabijan	
	⑤	University of Southern Philippines Foundation(フィリピン) (私立)					Paulino A. Yabao	
	⑥	Lycee Saint Stanislas (フランス) (私立)					Sophie Auphan	

5. 令和5年度 探究活動年間計画

DOOR ~扉をひらいて~

文科省「WWLワールドワイドラーニング」事業

- DS1 「グローバル探究Ⅰ」 山梨を見る（グローバルな視点で考える）
- DS2 「グローバル探究Ⅱ」 山梨の課題解決に向けた探究・プランニング（グローバル展開の実践）
- DS3 「グローバル探究Ⅲ」 山梨の魅力を全国へ、世界へ（グローバル探究の総括と発信）

「やまなし創世」に資するALネットワーク構想

●山梨県が抱えている後継者不足、人口減少等の課題を乗り越え、来るべきSociety5.0に向けた準備を進めるためには、次世代をリードする人材育成が不可欠である。国内外の高校、大学、企業、NPO等とALネットワークを構築し、探究カリキュラムを中心に高度で質の高い学びを提供し、さらに、海外の高校、企業、大学との交流プログラムを実施することで「やまなし創世」に貢献できるイノベティブなグローバル人材を育成する。

- イノベティブなグローバル人材
- ・常に問題意識を持ち多様な人々と新たな価値を共創する人材
- ・グローバルな視野を持ち持続可能な社会づくりを牽引する人材
- ・具体的な提案や活動により「やまなし創世」に貢献する人材
- 生徒に身に付けさせたい力
- 課題発見力 論理的思考力 想像力 コミュニケーション力 発信力
- ◎本年度の重点「発信力」

令和5年度 DOOR Stage1「山梨を見る」年間指導計画（1年）

期	月	日	曜	実施校時	グローバル探究Ⅰ(2単位)	形式	時数	使用教室	具体的な内容(補足)	その他特記事項(休日催事)
ベーシックスタディーズ	4	14	金	④	探究オリエンテーション(仮班分け)	一斉	1	記念館	●DOOR集会 学年合同で実施。協働意識を高め、上級生の下級生への指導体制を構築する。また、学習、進学面においても意識を高める。	○探究科ウェルカムキャンプ(4/15) ・探究セミナー「問い」の立て方 ・NIE探究ワークショップ ・グローバルリーダー育成セミナー ○DRPの活用(通年) ★前期中間試験(5/29~6/1) ○一高祭(6/20~22)
				⑤	DOOR集会	合同	1	視聴覚	●ウェルカムキャンプ 鋭意結束を高める、探究の心構えと基礎力を育成する	
	4	15	土	終日	探究科ウェルカムキャンプ(グローバルリーダー育成セミナー)	一斉		視聴覚 記念館		
				④	ベーシックスタディーズオリエンテーション(班分け)	一斉	1		●ベーシックスタディーズ ・基調講演(農林水産省講演会)を核に前後で探究、成果を壁新聞でまとめ発表する ・1グループ5名、計12グループ程度を構成 ・以後発展的に、山日「私も言いたい」新聞投稿、県政クイックアンサー等へ応募	
	4	21	金	④	「農」プレゼンテーション	班	1			
				⑤	「農」新聞の記事編集／ 県立図書館実地演習(12:40~13:40)	班	1	記念館	●「農」プレゼンテーション 読書した本の内容を各班で発表しあい農の抱える問題を共有する。また、以後、様々な機会ですディスカッション力を高める	
	5	12	金	④	「農」新聞の記事編集／ 県立図書館実地演習(12:40~13:40)	班	1			
				⑤	基調講演(農林水産省)／ディスカッション	一斉	2	記念館	●「農」新聞発表会 ・HR2会場実施 ・準備1分発表7分質疑反駁5分採点1分2年生講評2分(12グループ編成の場合) ・1・2年生間で仮のパーティー班を構成し、指導/アドバイスを通じた連携体制を講じる。発表会では、2年生の担当班の1名以上が発表会に参加し、講評を担当する	
	5	19	金	⑤⑥	基調講演(農林水産省)／ディスカッション	一斉	2	記念館		
				④⑤	「農」新聞の記事編集	一斉	2		●一高祭「農」壁新聞を一高祭に掲出	
6	9	金	④	「農」新聞作成	班	1				
			⑤	「農」新聞発表会／ディスカッション／審査 2年生講評	一斉	1	HR	●グローバルスタディーズ SDGs17項目毎に生徒を割り振り、各分科班では「農」と絡めながら探究し、個人レポートにまとめる。夏休み明けには、各分科班毎に共有し、全体の前で発表する。また、グローバルセミナーを通してグローバルビジョンを涵養していく		
6	16	金	④	「農」新聞発表会／ディスカッション／審査 2年生講評	一斉	1				
			⑤	県立大学講座「山梨の政策課題」／ディスカッション	一斉	2	記念館	●DOOR集会 ・各学年の進捗状況の報告会 ・2・3年生の引き継ぎ探究(d-STOCK)希望班は任意の書類にまとめプレゼン		
7	7	金	④⑤	SDGs基調講演／ディスカッション	一斉	2	記念館			
			④	SDGs探究	個人	1		●「農」シンポジウム ・苗吹高校と連携し実施		
7	14	金	④	SDGs探究	個人	1				
			⑤	DOOR集会(各学年報告会/継続探究プレゼン)	合同	1	視聴覚			
7	22	土	午前	7月22日(土)「農」シンポジウム	一斉		記念館			
			夏季休業	8月8日(火)先端企業見学 8月9日(水)エネルギー研修(理化学研究所)(希望者) ・DRP、新聞投稿執筆の推奨 ・SDGs探究 ・SGU等オープンキャンパス	一斉		校外	●エネルギー研修(昨年度希望の2年生を優先)		
8	25	金	④⑤	SDGs探究発表会／ディスカッション	個人	2				
			⑤⑥	グローバルセミナー(AI関係予定)／ディスカッション	一斉	2	記念館	●中国語特別講座 ・国際競争力スキルアップ講座として希望者に向け実施(1・2年生生合同)年間10回を計画 ・台湾研修が実現した場合、夏期に集中講座を苗吹高校と共同で計画予定		
8	15	金	⑤⑥	グローバルセミナー(県政策関係予定)／ディスカッション	一斉	2	記念館			
			⑤⑥	グローバルセミナー(県政策関係予定)／ディスカッション	一斉	2	記念館			

「農」関連書籍
読書月間
国際競争力スキル／中国語特別講座
「共創スキル」中国語特別講座
SDGsスキルとの連携

プレゼンテーション	9	22	金	④	一探未来フォーラムプレステージ(1・2年合同)	合同	1	視聴覚	●ハケ岳SDGsコミュニティ SDGsの普及を目指すNPO法人ハケ岳SDGsスクールと連携しながら協力的に推進する。任意のSDGsテーマ設定の下、県立図書館で月例ミーティングを実施(希望参加)。また、プレゼンターとしての参加も有意義	(台湾研修/笛吹高校と協働)(9月中旬)
				⑤	グローバルセミナーまとめ		一斉	1	記念館	
		23	土	午後	一探未来フォーラム(1・2年合同)	合同	1	視聴覚	●一探未来フォーラム 事前に生徒主体でテーマを作成。プレステージを含め山梨と世界の課題に向き合う	○一探未来フォーラム(9/23)
		29	金	④	プレゼンジャムセッションオリエンテーション (探究顧問発表)	一斉	1	記念館		
	10	6	金	④⑤	リサーチ	班	2	HR等	●プレゼンジャムセッション ・進路希望も考慮しながら新規に各班4(5)名、12グループを編成(次年度以降もこの班での継続が原則)。ポスターを作成し校内ブランドサミットにはこのテーマで臨む。なお、このセッションから探究顧問を配置する	
		13	金	⑤⑥	県立大学講座「取材論」	一斉	2	記念館		
		20	金	④⑤⑥	企業訪問	一斉	2	校外		
		27	金	④ ⑤	リサーチ	班 1	1	HR等	★探究顧問の主な任務 ①担当班の探究指導、その他必要に応じた助言指導 ②外部機関との連絡調整および実地調査の引率 ③ポスター等の作成及びプレゼン指導	
	11	10	金	⑤⑥	プレゼンセミナー(県立大学)	一斉	2	記念館		
		24	金	⑤⑥	サイエンスダイアログ(1・2年合同)	合同	2	視聴覚	●サイエンスダイアログ・理系研究者による英語による講義。1,2年合同企画	★後期中間試験(11/14~17)
	12	1	金	④ ⑤	ポスター編集	1			●実地調査 ・インタビュー活動はじめ、講演会やボランティアへの参加等、探究活動の要となる現場活動	
		8	金	④ ⑤	中間報告会(探究顧問)	班 1	1	HR等	・極力週休日や金曜の午後を活用するが、公欠も可能。なお、所定の書式を提出 ・アンケート調査については安易に考えず探究顧問とよく相談の上実施する ・各種コンクールへの参加も推奨する	
		15	金	④⑤⑥	企業訪問	一斉	2	校外	●Y-NEXTとの連携 ・主に2年生の参加を促すが、1年生においても探究が進んでいる班は参加可能 ・詳細は、2年生の欄を参照	
		5	金	⑤	ポスターデータ提出 リハーサル	班	1	HR等	●校内ブランドサミット ・HR4会場で実施 ・1,2年混合班の4つのチャックを作り双方向に発表しあいながら探究を共有し、高め合う ・準備1分→発表7分→質疑反駁9分→採点1分→バディー班、教員講評7分 ・質疑反駁、ディスカッションも重視する ・山梨ブランドサミットの予選会を兼ねる。原則として、ポスター、プレゼンの総合点の上位班の中から教員評価を加え、ブランドサミット全体会出場班を決定する	
	1	12	金	⑤⑥	校内ブランドサミット(1・2年合同)	合同	2	1・2年各HR		
		19	金	⑤⑥		1				
	2	26	金	④ ⑤		1			●メンターブラッシュアップ ・Y-NEXT関係の企業人講師による各班のメンタリング、ブラッシュアップ会 ・特に1年生に向け実施。探究の「問い」を重視	
		2	金	④ ⑤	プレゼン修正(社会課題探究/実地調査)	班	1	HR等		
		9	金	④ ⑤		1				
		16	金	④ ⑤	DOOR集会(ブランドサミットマニュアル読み合わせ) 年度末アンケート	合同	1	視聴覚	●DOOR集会 ・山梨ブランドサミットに向けたマニュアルの読み合わせをし、モチベーションを高めるとともに、各人が責任をもって行動できるようにする。	★後期期末試験(2/22~28)
3	上旬			ポスターデータ・探究活動実績報告書提出	班	1	HR等	●山梨ブランドサミット・年間の集大成の発表会(普通科参加)。全体会と分科会で構成 ・視聴覚室、北館教室棟2,3階等を使用 ・その他、全班のポスター、探究実績報告書、その他成果物を掲出	○オーストラリア研修(3/7~15)	
	15	金	④	リハーサル	1					
	20	水	終日	【公開】山梨ブランドサミット(探究活動発表会)	全校	1	校内	●新探究班編成に向けて ・現状の班員、探究内容で継続することを原則とするが、上級生の引継ぎを含め、必要に応じて若干の班員間の移動、探究内容、方向性の修正は可能	○山梨ブランドサミット(3/16)	
	下旬			1年間のまとめ						
合計時数							62			

(発展スキル) Y・NEXTとの連携
(共創スキル) NPO法人ハケ岳SDGsスクールとの連携
探究のその先へ(ビジネスブラッシュアップ)

令和5年度 DOOR Stage2「山梨の課題解決に向けた探究・プランニング」年間指導計画（2年）

期	月	日	曜	実施校時	グローバル探究Ⅱ(2単位)	形式	時数	使用教室	具体的な内容(補足)	その他特記事項(休日催事)
4	4	14	金	④	オリエンテーション アンケート 探究計画書作成	一斉	1	視聴覚	●DOOR集会 学年合同で実施。協働意識を高め、上級生の下級生への指導体制を構築する。また、学習、進学面においても意識を高める。	
				⑤	DOOR集会	合同	1	視聴覚		
	4	21	金	④	コンクール対策オリエンテーション	一斉	1	視聴覚	●各種コンクールへの応募 2年生は必須。企業や大学、民間が主催する各種コンペや論文コンクールなどを活用	○地実調査(通年)
				⑤	探究計画書提出		1			
5	5	12	金	④	リサーチ(探究顧問・英語顧問発表)／	班	1	視聴覚 LL教室等	●実地調査 ・インタビュー活動はじめ、講演会やボランティアへの参加等、探究活動の要となる現場活動 ・極力週休日や金曜の午後を活用するが、欠欠も可能。なお、所定の書式を提出 ・アンケート調査については安易に考えず探究顧問とよく相談の上実施する	○各種コンクールへの参加(通年) ○DRPの活用(通年)
				⑤	県立図書館実地演習(12:40～13:40)					
	5	19	金	④	リサーチ		1			
				⑤			1			
	6	26	金	④	論文ゼミ	一斉	1	視聴覚	●論文ゼミ 本校国語科教師が講師。探究論文編集に向け、早い段階で基礎基本を習得する	
				⑤			1			
6	6	9	金	④	リサーチ	班	1	視聴覚 LL教室等	★探究顧問の主な任務 ①担当班の探究指導、その他必要に応じた助言指導 ②外部機関との連絡調整および実地調査、コンクール等への引率 ③レジュメ、PPT、論文の作成およびプレゼン指導とデータ管理	★前期中間試験(5/29～6/1)
				⑤						
	6	16	金	④	リサーチ	班	1	視聴覚 LL教室等	★英語顧問の主な任務 ・担当班の英語指導、その他必要に応じた助言指導	
				⑤						
	7	30	金	④	リサーチ/1年生壁新聞講評		1		●一高祭 1年時ポスター、探究実績報告書は一高祭にて掲出	○一高祭(6/20～22)
				⑤			1			
7	7	7	金	④	リサーチ		1		●ハケ岳SDGsコミュニティー SDGsの普及を目指すNPO法人ハケ岳SDGsスクールと連携しながら協力的に推進する。任意のSDGsテーマ設定の下、県立図書館で月例ミーティングを実施(希望参加)。また、プレゼンターとしての参加も有意義	
				⑤			1			
	7	14	金	④	中間報告会 夏季休業対策	合同	1	視聴覚	●DOOR集会 ・各学年の進捗状況の報告会 ・2・3年生の引き継ぎ探究(d-STOCK)希望班は任意の書類にまとめプレゼンする	○探究科登校学習会(8/1～4)
				⑤	DOOR集会(各学年報告会/継続探究プレゼン)		1			
夏季休業				・DRP、SGU等オープンキャンパス・リサーチ(実地調査) ・8月9(水)エネルギー研修(理化学研究所)(昨年希望者優先)						
8	8	25	金	④	リサーチまとめ	班	1	視聴覚 LL教室等	●中国語特別講座 ・国際競争カススキルアップ講座として希望者に向け実施(1・2年生合同)年間10回を計画 ・特に2年生(有志)については、笛吹高校が企画する台湾へのシャインマスカット販売実習に同行する(予定) ・台湾研修が実現した場合、夏期に集中講座を笛吹高校と共同で計画予定	○オープンスクール 探究科説明会(8/26・27)
				⑤						
	9	1	金	④	リサーチまとめ	班	1	視聴覚 LL等	●グローバルステップ1(セブ対策) セブ島研修旅行を見据え、現在までの探究活動をイングリッシュプレゼンテーションセミナー講師陣や英語顧問の指導助言を受け英語レジュメ、PPT等にまとめる	★前期期末試験(9/5～8) ○台湾研修(9月中旬頃 笛吹高校と協働)
				⑤						
	9	15	金	④	研修旅行基調講義	一斉	1	視聴覚	●一探未来フォーラム 事前に生徒主体でテーマを作成。プレステージを含め山梨と世界の課題に向き合う	
				⑤			1			
	9	22	金	④	一探未来フォーラムプレステージ(1・2年合同)	合同	1	視聴覚		
				⑤	リサーチまとめ(日本語版仮完成)	班	1	LL等		
		23	土	午後	一探未来フォーラム(1・2年合同)	合同	1	視聴覚		○一探未来フォーラム(9/23)

④ ⑤ (必修スキル) NPO法人ハケ岳SDGsスクールとの連携 各種コンクール等への参加
 (国際競争カススキル) 中国語特別講座 論文対策

29	金	④	研修旅行スタディー				班	1	視聴覚		
6	金	⑤⑥	イングリッシュプレゼンテーションセミナー(理論)				一斉	2	視聴覚	●イングリッシュプレゼンセミナー ・外部講師人によるセミナー&ワークショップ	
13	金	④⑤	英語PPT編集				班	2	視聴覚	●探究成果を英語でプレゼンするための導入ステージ。理論編でレクチャー受け、実践編までに各班の成果を英語に翻訳し講師陣(県内ALT)にアドバイスをいただく ・なお、その後の指導は英語顧問が担当する	
20	金	④	(英語顧問発表)				班	1	視聴覚	●研修旅行スタディー	
	金	⑤	英語PPT編集				LL教室等	1		・研修旅行基調講義を旅行者から受け、班別に任意の課題を設定、探究	
27	金	④	PPT仮完成/プレゼンリハーサル				班	1		●Y・NEXTとの連携	
	金	⑤					1			・県、Mt.Fujiイノベーションエンジンが主催する高校生向け起業チャレンジ事業	
3	金	午前	イングリッシュプレゼンテーションセミナー(実践)				一斉	1	視聴覚	・キックオフイベント→予選→本選と進む過程で各企業人等が参加班にメンターとして懇切丁寧なメンタリングを頂ける	○イングリッシュプレゼン実践セミナー(10/29)
11	10	金	④⑤	研修旅行スタディー発表会			一斉	2	視聴覚	・探究のその先の実践的なステージで2年は参加を推奨する	
24	金	⑤⑥	サイエンスダイアログ(1・2年合同)				合同	2	視聴覚	●サイエンスダイアログ ・理系研究者による英語による講義。1・2年合同参加	★後期中間試験(11/14~17)
1	金	④	英語プレゼン修正				班	1	視聴覚		
	金	⑤	研修旅行プレゼンリハーサル				LL教室等	1			
4	月	終日	研修旅行(現地プレゼンテーション)				一斉		国内	●セブ島研修(本年度は国内実施) 各グループの探究成果を外国人留学生(予定)にプレゼン・発信し、ディスカッションを通してグローバルな視点を涵養する	○研修旅行現地発表会(12/4~8)
15	金	④	社会課題探究/プレゼン修正				班	1	視聴覚		
	金	⑤					LL教室等	1			
5	金	④	社会課題探究/プレゼン修正				班	1			
12	金	⑤⑥	校内ブランドサミット(1・2年合同)				合同	2	1・2年各HR	●校内ブランドサミット ・HR4会場で実施 ・1・2年混合班の4つのチャックを作り双方向に発表しあいながら探究を共有し、高め合う ・準備1分→発表7分→質疑反駁9分→採点1分→バディー班、教員講評7分 ・質疑反駁、ディスカッションも重視する ・山梨ブランドサミットの予選会を兼ねる。原則として、ポスター、プレゼンの総合点の上位班の中から教員評価を加え、ブランドサミット全体会出場班を決定する	
19	金	⑤⑥					合同	2			
26	金	④	社会課題探究/プレゼン修正				班	1	視聴覚	●メンターブラッシュアップ ・Y・NEXT関係の企業人講師による各班のメンタリング、ブラッシュアップ会 ・2年生は希望に応じて参加(1年生が中心)	
	金	⑤	ライフプランニング育成講座(普通科合同)				合同	1	視聴覚		
2	9	金	④	社会課題探究/プレゼン修正			班	1	視聴覚	●DOOR集会 ・山梨ブランドサミットに向けたマニュアルの読み合わせをし、モチベーションを高めるとともに、各人が責任もって行動できるようにする。	★後期期末試験(2/22~28)
	金	⑤					LL教室等	1			
16	金	④	DOOR集会(ブランドサミットマニュアル読み合わせ)年度末アンケート				合同	1	視聴覚	●探究論文(探究成果報告書) ・2年生の段階は仮提出(表記は日本語) ・研修旅行後より、山梨ブランドサミットの取り組みと並行して進行させる	
	金	⑤	社会課題探究/プレゼン修正				班	1	視聴覚		
上旬			英語レジュメ・探究活動実績報告書提出				LL教室等	1			
3	15	金	④	リハーサル			班	1		●山梨ブランドサミット ・探究活動発表会は年間の集大成の発表会(普通科参加)。全体会と分科会で構成 ・視聴覚室、北館教室棟2、3階を使用 ・その他、全班的英語レジュメ、探究実績報告書、その他成果物を掲出	○オーストラリア研修(3/7~15) ○山梨ブランドサミット(3/16)
	20	水	終日	【公開】山梨ブランドサミット(探究活動発表会)			全校	1	校内		
				(3/25)探究論文仮提出							
合計時数									61		

(共創スキル) NPO法人ハケ岳SDGsスクール 実地調査 各種コンクール等への参加
 (発展スキル) Y・NEXTとの連携 研修旅行対策、山梨ブランドサミット対策
 (グローバルスキル) 論文対策
 (必修スキル) ハケ岳SDGsコミュニティ年間活動への参加

令和5年度 DOOR Stage3「山梨の魅力为全国へ、世界へ」年間指導計画（3年）

期	月	日	曜	実施校時	グローバル探究Ⅲ(1単位)	形式	時数	使用教室	具体的な内容(補足)	その他特記事項(休日催事)																																															
4	4	14	金	⑤	DOOR集会 アンケート	合同	1	視聴覚	●DOOR集会 学年合同で実施。協働意識を高め、上級生の下級生への指導体制を構築する。また、学習、進学面においても意識を高める。本年度は昨年実施不十分であった校内ブランドサミットを簡略化して行う。 ●3年次のコンセプトは「個への還元」 ・S&Iメソッド(Sharing and Integration)2年次までグループで分担して探究してきた内容を「ポスター」「探究論文」を共有することで、個人でも発表できるレベルに高める。 ★探究顧問の主な任務 ①担当班の探究指導、その他必要に応じた助言指導 ②外部機関との連絡調整および実地調査、ファイナルプロポーザル時の引率 ③ポスター、論文、PPT等の作成およびプレゼン指導とデータ管理 ●一高祭 ポスター、論文、探究実績報告書は一高祭にて掲出	○提案活動(夏季休業までに終了)																																															
		21	金	⑤																																																					
5	5	12	金	⑤	ポスター/論文作成	班	1	HR等																																																	
		19	金	⑤																																																					
6	6	26	金	⑤	(小論文・面接ガイダンス?)	合同	1	視聴覚		★前期中間試験(5/29~6/1)																																															
		9	金	⑤	ポスター/論文作成																																																				
7	7	16	金	⑤	論文・ポスター・探究実績報告書 最終〆切り日	班	1	HR等		○一高祭(6/20~22)																																															
		30	金	⑤	提案・発表活動等																																																				
7	7	7	金	⑤	3年間のまとめ・アンケート	一斉	1		●ファイナルプロポーザル ・企業、大学、行政、民間など、外部機関に探究成果を提案(報告) ・論文コンクール他イベントの開催やコンクールへの応募に振り替えることも可能																																																
		14	金	⑤	DOOR/探究科集会(各学年報告会)																																																				
夏季休業																																																									
8	8	25	金	⑤	(総合的な探究の時間)	個人もしくは任意のグループ	1	HR	●グローバルステップ(キャリアアクション) ・推薦入試等で早期に結果が出た者は、さらに探究活動を深め、年度末に行われる公開発表に臨む ・キャリアに結び付け任意のグループもしくは個人単位で、新たな探究に切り替えるも可能 ・言語は任意	★前期期末試験(9/5~8)																																															
		1	金	⑤																																																					
9	9	15	金	⑤							*推薦入試等進学決定者は山梨ブランドサミットに向けた対策 グローバルステップ(キャリアアクション)	1	HR		★後期中間試験(11/14~17)																																										
		22	金	⑤																																																					
10	10	6	金	⑤													1	HR																																							
		13	金	⑤																																																					
11	11	20	金	⑤																		1	HR																																		
		27	金	⑤																																																					
12	12	10	金	⑤																							1	HR																													
		24	金	⑤																																																					
1	1	1	金	⑤																												1	HR																								
		15	金	⑤																																																					
2	2	12	金	⑤																																	1	HR																			
		19	金	⑤																																																					
3	3	26	金	⑤																																						1	HR														
		26	金	⑤																																																					
2	2	自由登校																																												(自由登校)				●山梨ブランドサミット ・探究活動発表会は年間の集大成の発表会(普通科参加)。全体会と分科会で構成 ・視聴覚室、北館教室棟2、3階を使用 ・3年生は該当者のみ出場 ・その他、全班的ポスター、論文、探究実績報告書を掲出							
																																																				20	水	終日			
* 該当者のみ 【公開】山梨ブランドサミット(探究活動発表会)																																																									○山梨ブランドサミット(3/16)
合計時数																																																						25			

探究科ウェルカムキャンプ

4月15日、探究科一年生は探究科ウェルカムキャンプを行った。

講師に戸田達昭さんをお招きし、入学して初めての講義を受けた。起業家である戸田さんの物事を見る視点に感銘を受けた。具体的には「山梨に人口減少や少子高齢化などの課題が山積みなことはチャンス」というものだ。

私は一高の探究活動を極めた先にある将来の道の一つとして、会社を興し世界的な視野を持って日本や山梨県の課題を解決していく道もあるのだと感じた。

本格的な探究活動を始める前に刺激的な講演を聞くことができよかったと思う。

(記者:1-5 齊藤)



On April 15th, the first-year students of the Inquiry Course held an Inquiry Course Welcome Camp. We invited Mr. Tatsuaki Toda as a lecturer, and it was our first lecture since entering the school. I was deeply impressed by Mr. Toda's perspective as an entrepreneur. Specifically, he said, "The challenges such as depopulation and aging population in Yamanashi can be seen as opportunities."

I felt that establishing a company and solving the problems in Japan and Yamanashi Prefecture with a global perspective could be one of the future paths after mastering research activities at our school. I think it was great to hear an inspiring lecture before starting serious research activities.

山梨県立図書館実地調査について

5月12日、1年生の探究科の班の代表者12名が山梨県立図書館に図書館の活用の仕方をレクチャーしていただくため調査に行った。

図書館の方に図書館の内部まで詳しく教えていただいた。

図書館はあまり利用したことがなかったが今回の実地調査を通して、たくさんの本があり、勉強などにも活用することができるのにも関わらず今まで利用してこなかったことを後悔した。これから活用して知識と見聞を深めたい。

個人的に、図書館の地下室にたくさんの本や今までの山梨日日新聞が保管されておりとても興味深かった。(記者:1-5 中村)



On May 12th, 12 representatives from the first-year Inquiry Science class conducted a survey visit to the Yamanashi Prefectural Library to receive a lecture on how to utilize the library effectively.

The library staff provided us with detailed information about the library's interior. Although I hadn't used the library much before, through this on-site investigation, I regret not utilizing it more in the past, considering the multitude of books and its potential for academic purposes. I am determined to make better use of it in the future to enhance my knowledge and broaden my horizons.

Personally, I found the library's basement, where a vast collection of books and archived issues of the Yamanashi Nichinichi Shimbun (Yamanashi Daily Newspaper) is stored, to be particularly intriguing.

SDGs基調講演

5月19日探究科1年はNPO法人「八ヶ岳SDGsスクール」から丸茂哲雄先生をお招きしてSDGs基調講演を行った。今現在社会問題のテーマとなっているSDGsについてじゃんけんを用いて分かりやすくそして楽しく学ぶことができた。

この講演からSDGsの重要性を再確認することができた。また、私たち1人1人が社会問題を真剣に考え解決していこうと意識することから始めることが大切だと感じた。

(記者:1-5 新見)

On May 19th, the first year of the Inquiry Course invited Mr. Tetsuo Marumo from the NPO Yatsugatake SDGs School to give an SDGs keynote lecture. I was able to learn about the SDGs, which are currently a social issue, in an easy-to-understand and fun way using rock-paper-scissors. Through this lecture, I was able to reaffirm the importance of the SDGs. I also felt that it is crucial to start by consciously considering and addressing societal issues individually, with each of us taking them seriously.



「農」新聞発表

6月16日。10月からの探究活動の第1歩として、1年生は2ヶ月前から農業の本を持ち寄り、農業の現状や課題について班で意見を交わしてきた。

そして当日。4グループに分かれて発表を行った。1年生はこれが探究科としての初めての発表というだけでなく、お互い班を点数で評価するため、緊張感漂う雰囲気だった。先輩からも発表の仕方などのアドバイスをいただき、自分達の発表を振り返った。(記者:1-5 川口)

June 16. As the first step in their research activities starting in October, the first year students brought in books on agriculture and they exchanged opinions as a group about the current state of agriculture and the issues it faces.

On the day of the event, the presentation was divided into four groups. Not only was this the first time for the first year students to make a presentation for the inquiry course, but the atmosphere was tense as each group was to be graded on the basis of their scores. They received advice from their seniors on how to give their presentations and reflected on their own presentations.

(Reporter:1-5 Kawaguchi)



山梨県立大学講座

「山梨県の政策課題・山梨の国際観光の動向について」

6月30日、探究科一年生は、山梨県立大学の吉田均教授から、これからの山梨県の観光業のあり方についての講義を受けました。コロナの影響で大きな打撃を受けた観光業を、この先どのようにしていくべきか、そして私たちには何ができるか、などの話を聴きました。多くの質問が飛び交い、意義深い時間になりました。(記者:1-5 岸本)

On June 30, the first-year students of the Inquiry Course received a lecture from Professor Hitoshi Yoshida of Yamanashi Prefectural University on the future of the tourism industry in Yamanashi Prefecture. We listened to stories about how the tourism industry, which has been hit hard by the coronavirus, should move forward, and what we can do. Many questions were asked and it was a meaningful time. (Reporter 1-5 Kishimoto)



農林水産省 基調講演

7月7日に農林水産省から講師の方をお招きして現代日本の農業の情勢や今後の見通しについての基調講演が行われた。後半は班ごとにわかれて、農業について探究していくうえで浮かんだ疑問や今後の日本の農業について講師の方に質問をした。例えば、「農業従事者が少ない現状にあるが、農業従事者を増やすためにはどうすればいいか」という質問に対して「セカンドキャリアとして農業をする。または社会人向けの農業の研修の補助をする必要がある」という返答をいただいた。このように貴重なお話をたくさん聞くことができた。本日の講演を今後の探究活動に生かしていくことができるといいと思う。

(記者:1-5 野口)

On July 7th, a lecturer from the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries was invited to give a keynote speech on the current state of Japan's agriculture and future prospects. In the second half, the students divided into groups and asked the instructor questions about thoughts that came to mind as they considered the future of Japanese agriculture. For example, in response to the question, "Currently, there are few people working in agriculture: what can I do to increase the number of people working in agriculture?" "There is a need to assist with agricultural training for working adults," was the response. We were able to hear many valuable stories like this. I hope that we can make use of today's lecture in our future research activities. (Reporter:1-5 Noguchi)



DOOR集会

7月14日、探究科の1、2、3年生合同で今年度2回目のDOOR集会が行われた。3年生にとっては最後のDOOR集会となった。

今回のDOOR集会では、2、3年生が私たち1年生に、引き継いでほしい探究テーマについて各班1分間という限られた時間の中で、丁寧に伝えてくださった。先輩方が探究活動の中で企業や地域の方、班の仲間と協力し、甲府第一高校から山梨、そして世界を豊かにしようと現地に赴いて調査、分析し、まとめ、発表するという努力を続けてこられたことを改めて感じた。(記者:1-5 平井)

On July 14th, the second DOOR assembly of the year was held jointly by first, second, and third year students in the Inquiry Department. This was the last DOOR assembly for the third year students. At this DOOR assembly, the second and third year students carefully explained to us, the first year students, the research topics they would like us to carry on, within the limited time of one minute for each group. In their research activities, the seniors collaborated with people from companies, the local community, and group members to enrich the lives of Kofu Daiichi High School, Yamanashi, and the world. I once again felt that I have continued to make efforts to present my work. (Reporter:1-5 Hirai)



「農」シンポジウム

7月22日(土)、探究科1学年で農シンポジウムが行われた。三名の講師の方々を招き、基調レクチャーとディスカッションを行った。

講師の方々から、「農と自分」についてレクチャーして頂き、活発な話し合いが行われた。今回の農シンポジウムを通して、色々な視点から農業に関わることが大切だと感じた。
(1-5 渡辺 怜奈)

The other day, an agricultural symposium was held for the first grade of the research course. Three lecturers were invited to give keynote lectures and discussions. The lecturers gave lectures on "Agriculture and myself", and a lively discussion took place. Through this agricultural symposium, I felt the importance of being involved in agriculture from various perspectives.

(1-5 Rena Watanabe)



先端企業見学

8月8日、我々探究科は先端企業見学として、長野県にあるかんてんぱぱ(伊那食品工業株式会社)と養命酒製造を訪問した。「山梨県の周りの企業の魅力を知る」を目的とし、社員の方による1時間ほどの講演を聞き、その後、各自工場やショップなどを見学した。

いつもは見ることのできない製品の製造の様子や仕組みは大変興味深く、これからの私たちの探究活動に活かすことができると感じた。さらに企業を運営するのに大切な「関わる全ての人を大切にする。」という経営者の考え方はこれからの私たちの人生にも生かせるだろう。(記者:1-5 増澤)

On August 8th, the Inquiry Department visited Kanten Papa (Ina Food Industry Co.) and Yomeishu Brewery in Nagano Prefecture on our tour of major companies. The purpose was to "discover the appeal of companies around Yamanashi Prefecture." We listened to lectures from employees of every company, for about 30 minutes to an hour each, and then individually toured the factories and shops.

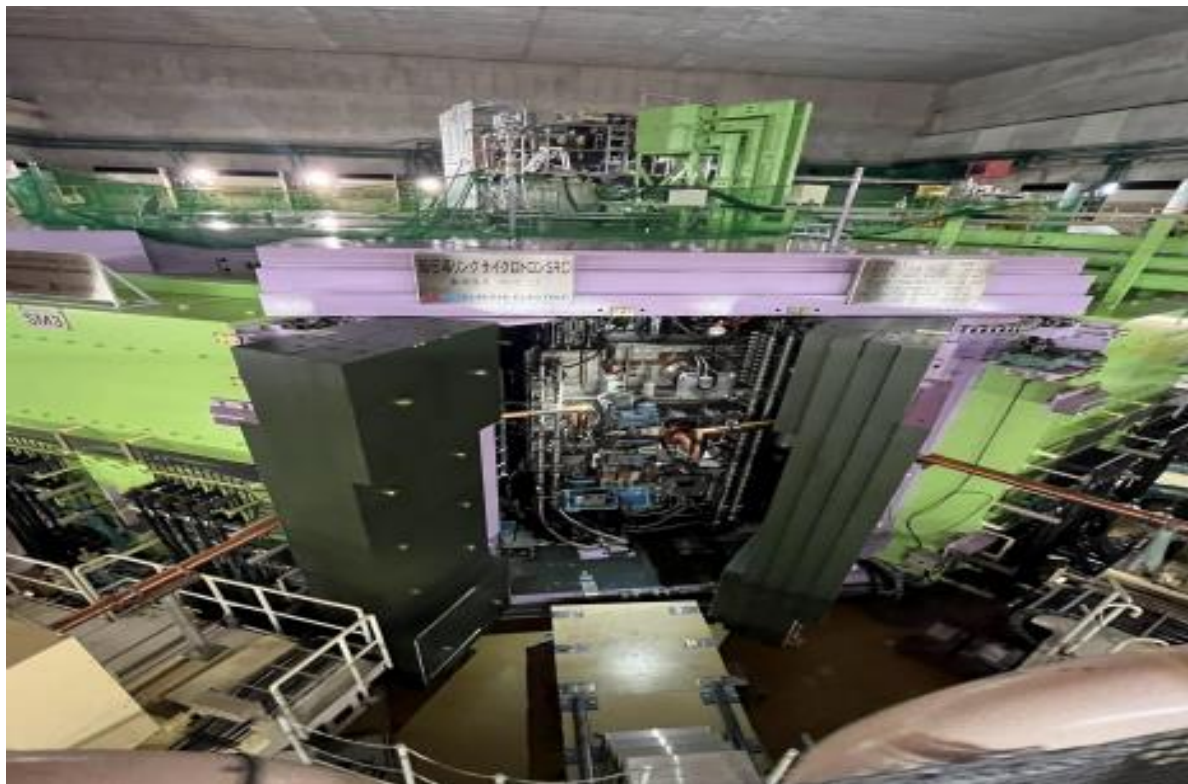
I found the process and mechanisms of manufacturing products, which I don't usually get to see, very fascinating, and believe that it can be applied to our future research. Furthermore, the business philosophy of "valuing everyone involved" in running a company is something that we can also apply to our lives in the future. (Reporter:1-5 Masuzawa)



理化学研究所訪問 Visit to RIKEN

探究科 1、2 年生の希望者を集い「理化学研究所」を訪問しました。理化学研究所には原子核の研究世界一の加速器であり、ギネス世界記録にも認定された【仁科加速器】という加速器があります。通常は見ることのできない仁科加速器のある研究室の内部まで見学させていただき、実際に加速器を真近で見ることができました。また研究者の方々による講義を聞き、質疑 応答を通してさらに個々の理解を深めることができました。難しい内容でありながらも、実際に研究室や加速器を見たり、情熱をもつ研究者の方々の姿がこれからの学習に向けての刺激となりました。この貴重な経験をこれからの学習や探究活動の糧にしていこうと思います。(記者:1-5 藤本)

We gathered together 1st and 2nd year students from the Inquiry Department and visited the RIKEN. RIKEN has an accelerator called the Nishina Accelerator, which is the world's largest accelerator for nuclear research and has been recognized by the Guinness Book of World Records. We were able to tour the inside of the laboratory where the Nishina accelerator is located, which is normally not possible to see, and we were able to actually see the accelerator up close. They also listened to lectures given by researchers and were able to deepen their individual understanding through question and answer sessions. Although the content was difficult, I was able to see the laboratories and accelerators in person, and see passionate researchers, which inspired me to continue my studies. I will use this valuable experience as fuel for my future learning and research activities. (1-5 Fujimoto)



夏休み中の自由探究について その1

8月25日、探究科一年生はSDGsに関するスピーチを行った。
夏季休業中にそれぞれが調べてきたことを仲間に話し、仲間の質問に丁寧に対応した。
SDGsの目標について仲間から話を聞くことで、現状や解決への方法などを考えることができた。
また、私が発表するときにはかけられた質問を聞いて、調べが甘かったことを痛感した。
これからの探究活動に向けての良い練習となった。(記者:1-6 桑原)

On August 25th, the first-year students of the Social and Scientific Research course made a speech about SDGs.

We spoke about what we researched during summer break and answered questions by the listeners.

From the listeners talking about the SDGs, I was able to think about the current situation and how to solve it.

Also, I felt my research wasn't perfect when I was asked the question when I was presenting.

It was good practice for future exploration activities. (Reporter:1-6 Kuwahara)



グローバルセミナー

9月1日(金)、岡澤重信先生を招いてグローバルセミナーが行われた。「AIの可能性と課題」について講演をしていただき、「画像生成AI」や「ディープラーニング」などのAIの進歩が垣間見えるお話を伺った。また、「シンギュラリティ」などのAIがもつ懸念点についても学び、AIのもつ人の生活を豊かにする可能性とそれに伴うAIの行き過ぎた高度化などの課題について理解が深まった。

今回の講演を通して、AIが人間の仕事を奪ってしまうことへの不安が残った一方で、今後AIがもたらす豊かな生活への期待が高まった。(記者:1-6 進藤)

On September 1st, a Glocal seminar featuring Professor Shigenobu Okazawa was held. He delivered a lecture on the "Possibilities and Challenges of AI," providing insights into advancements in AI such as "image generation AI" and "deep learning." We also learned about concerns related to AI, such as "singularity," deepening our understanding of the potential for AI to enrich human lives as well as the challenges associated with its excessive sophistication.

Through this seminar, while anxiety remains regarding AI potentially taking away human jobs, there is also a growing anticipation for the advantages that AI can bring in the future. (Reporter:1-6 Shindo)



グローバルセミナー

9月15日 山梨県知事政策局政策グループの志村先生を講師に招いてグローバルセミナーが行われた。演題は山梨県の行政課題と対策についてだ。県の目標である【県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし】について〈豊かさの多様性〉や〈人口減少〉などの観点から私たちのできることについて理解を深めることができた。

これからの山梨を担っていく私たちにとってとても有意義な講演となった。

(記者:1-6 保坂)

A global seminar was held on September 15th, with Mr. Shimura invited to speak. This time, the topic was about administrative issues and countermeasures in Yamanashi

We were able to understand the prefecture's goal of Yamanashi where each prefectural citizen can feel a sense of wealth and what we can do from the perspectives of "diversity of abundance" and "population decline".

This lecture was very meaningful for us, as will carry the future of Yamanashi.



一探未来会議

9月22日に本校で国際会議が行われた。午前中は宮城県でカキの養殖をしている畠山重篤氏をお招きし、「森は海の恋人 人の心に木を植える」というタイトルで講演会が行われた。地球温暖化が進んでいく中で、植物や水を通して環境を改善するにはどうしたらよいのか、そしてわたしたちは何をすべきなのか貴重なお話をしていただいた。お話の中で初めて聞く用語も多く、知識を深めることができた。

午後は環境・人権・貧困・戦争・外交の5つの分科会に分かれて、プレゼンやディスカッションに取り組んだ。一高以外での参加者は、連携校の笛吹高校・甲府東高校、東京からは渋谷教育学園渋谷高等学校、海外からはドイツの高校生が参加し、「グローバルサウス」から見た人権・貧困・戦争・外交について各自の考えを発表した。また、それぞれの分科会に東京同窓会の先輩方や外部の方に助言者として参加していただき、私達にはない視点のアドバイスや意見をお聞きすることができた。

現在、世界の問題となっている「グローバルサウス」に目を向け、その解決を目指して非常に有意義な話し合いをすることができたと思う。(記者:1-6 伊藤・貝瀬)

international conference

An international conference was held at our school on September 22. In the morning, Mr. Shigeatsu Hatakeyama, an oyster farmer in Miyagi Prefecture, was invited to give a lecture titled "Forests are Lovers of the Sea: Planting Trees in People's Hearts". In the midst of global warming, he gave a valuable talk on how we can improve the environment through plants and water, and what we should do about it. Many of the terms used in the lecture were new to me, and I was able to deepen my knowledge.

In the afternoon, the participants were divided into five subcommittees, covering the environment, human rights, poverty, war, and diplomacy, and engaged in presentations and discussions. Alumni and outsiders participated in each session as advisors, and we were able to hear advice and opinions from perspectives we did not have. I believe that we were able to have very meaningful discussions with an eye toward the Global South, which is currently the world's most pressing issue, with the aim of finding a solution.

(1-6 Ito・Kaise)



プレゼンジャムセッション

10月6日、探究科1年生は本校でプレゼンジャムセッションを行った。

班ごとに分かれ、顧問の先生と相談しながらこれからの探究活動について、話し合いを行った。いよいよ探究活動の始まりを感じることができ、意識が高まったと思う。

これから本格的に探究活動が始まるにあたって、意義のある探究ができるように1人1人が本気で取り組んでいきたい。

(記者:1-6 堀内)

On October 6th, first year students from the Inquiry Course held a presentation jam session at our school. The students divided into groups and discussed future research activities while consulting with their advisors and others. I think my awareness has increased as I can finally get a sense of the beginning of my research activities. As research activities begin in earnest, I want each of us to work seriously so that we can conduct meaningful.

(Reporter:1-6 Horiuchi)



県立大学講座「取材論」について

10月13日、山梨県立大学の兼清慎一教授をお招きし、取材論公演が開催された。公演では、取材を行う上で大切なポイントを、映像など見ながら学んだ。また、取材とは価値観を変えるものであることを、実際の取材を通して理解することができた。活動の中で必要なインタビューについてわかりやすく教えていただき、参加者全員にとって学びの多い公演となった。(記者:1-6 北村)

On October 13, a lecture on news gathering theory was held with Prof. Shinichi Kanekiyo of Yamanashi Prefectural University. In the performance, participants learned about important points for conducting interviews by watching videos and other materials. We were also able to understand that interviewing is something that changes our sense of values through actual examples of interviews. The performance was a learning experience for all of us, as it taught us in an easy-to-understand way about the interviews that we need to conduct in our activities. (Reporter:1-6 Kitamura)



10/20スーパースプラウト・企業見学

スーパーでよく見かける豆苗ですが、実は山梨県に工場を持った村上農園が日本一の生産量を誇っていることは知っていましたか？もちろん豆苗だけでなく、その他様々なスプラウト商品も生産されています。10/20の探究活動ではそんな農業界の最前線で活躍する村上農園について学びました。他社と差をつけて生き残っていく戦略やスプラウトに注目し成功した秘訣など、これから農業関連の探求を考えている生徒にとってもそうでない生徒にとっても学びが多い1日でした。皆さんもぜひお近くのスーパー等でスプラウトを探してみてください！(記者:1-6 坂江)



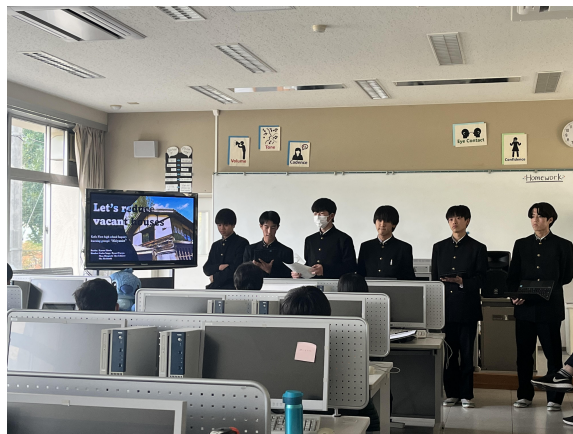
I think many people have seen this bean sprouts packaging in supermarkets before, but did you know that the factory producing the largest number of them is in Yamanashi? Of course, many other sprout products are produced as well. On 10/20, we studied the Murakami Farm, the factory which leads the agriculture world. We learned about ways to gain advantages over other similar companies, how the company succeeds by focusing on sprouts, and so on. Whether students are thinking about studying agriculture in the future or not, there were lots of things we could learn. I hope many people read this try out sprouts for the day's dinner!

イングリッシュプレゼンセミナー

11月4日、探究科2年生はイングリッシュプレゼンテーションセミナーに参加した。これは、修学旅行で訪れる台湾でのプレゼンテーションや3月に開催されるブランドサミットに向けたものであった。私たちはALTの先生方からアドバイスをいただくことができ、とても充実した時間となった。

On November 4th, the second-year students of the Social and Scientific Research course were attended the English Presentation Seminar. This was in preparation for our presentation in Taiwan, which we will visit on our school trip and brand summit on March. It was the first time for us to present in English, but we were able to get advice from ALT teachers and it was a very productive time.

2-6 Uchikawa



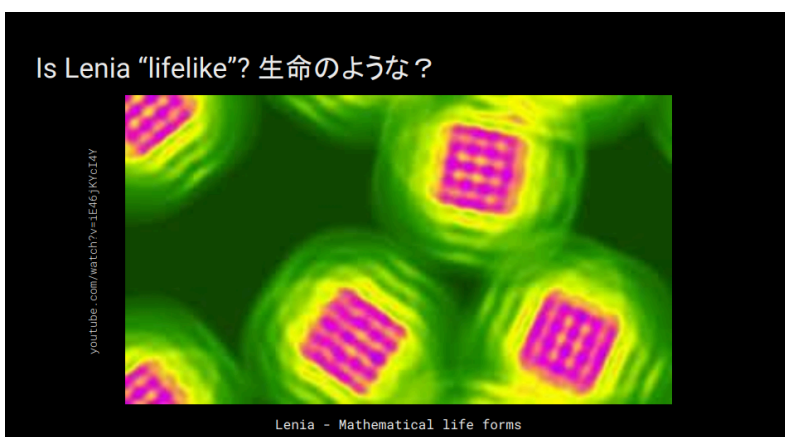
サイエンスダイアログ

一高では、11月24日にサイエンスダイアログが行われた。
講師として東京大学で研究しているMichael Crosscombeさんをお招きし、本校探究科1,2年生が Collective Intelligence and Artificial Life(人工生命)について学びを深めた。普段聞くことができない人工生命についてその研究内容をお話いただき貴重な機会を得ることができた。

On 24 November

A science dialogue was held at Ichiko High School.

The lecturer was Dr Michael Crosscombe, a researcher at the University of Tokyo, and the first- and second-year research course students learned more about Collective Intelligence and Artificial Life. It was a valuable opportunity for the students to hear about his research on artificial life, which they would not normally have the chance to hear about. (2-6植松)



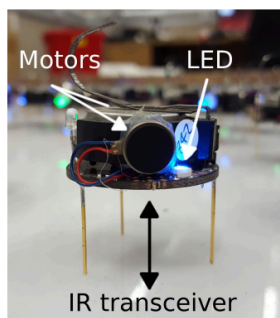
Kilobot experiments

We study the models on a swarm of **400 Kilobots** moving randomly within a 1.2 m² arena.

We use a simulation environment called Kilobox (Jones et al. 2016) developed at the Bristol robotics lab.

We study various communication radii $r \in [0, 20]$ cm
Where the Kilobots' maximum radius is 10 cm.

Each time step is roughly ¼ s in embodied experiments. So 1000 time steps = 4 mins.



企業訪問

12月15日に企業訪問があった。まず、初めに「山梨文化財研究所」に訪問した。ここでは、文化財レスキュー活動、遺跡出土金属製品・木製品等の保存処理・修復や、水晶について学んだ。沢山の興味深いお話を伺うことができたが、「文化財レスキュー活動」については初めて聞くことが多く、とても面白かった。この活動は、水害などにより緊急に保全措置を必要とする文化財等について、救出し、応急処置をすることである。

次に訪問した印傳屋さんでは、甲州印傳ができるまでの工程を一から見せていただいたり、模様の意味を教えていただいたりした。一つ一つの工程がとても繊細かつ丁寧で、今もこれから先もいろいろな人に愛されていくのだなと感じた。

今回の企業訪問では、文化財や伝統工芸品が残っているのは、それらを後世に残そうという強い思いがあるからだと感じた。（記者:1-6 辻）

Company Visit

On December 15, there was a company visit. First, we visited the Yamanashi National Research Institute for Cultural Properties.

Here, we learned about cultural property rescue activities, conservation treatment and restoration of metal and wooden products excavated from archaeological sites, and quartz crystals and crystals. We heard many interesting stories, but many of the 'cultural property rescue activities' were new to us and very interesting. This activity is to rescue and provide emergency treatment to cultural properties in need of urgent conservation measures due to flooding or other causes.

Next, we visited an Inden shop, where we were shown the process of making Koshu Inden from scratch, and the meaning of the patterns. I felt that each process was so delicate and careful that it will be loved by many people now and in the future.

During our company visit, we learned that cultural assets and traditional crafts remain because there is a strong desire to preserve them for future generations. I felt that the reason why cultural assets and traditional crafts remain is because there is a strong desire to preserve them for future generations. (1-6 Tsuji)



校内ブランドサミット一日目

1月12日に、校内ブランドサミット1日目が行われました。3月20日の山梨ブランドサミットに向けて、各班が入念に準備してきたポスターセッションを発表しました。それぞれの班がベストを尽くし、発表だけでなく質疑応答やディスカッションも盛んに行われました。自分や他の班のメンバーの視点の他にも、外部の講師の方々や他の班の先輩からも意見をいただくことができ、とても有意義な時間になりました。

次週は2年生の班に発表していただきます！とても楽しみです。

On January 12, the first day of the school's Brand Summit was held, with each group presenting a poster session that they had carefully prepared for the Yamanashi Brand Summit on March 20. Each group gave their best, and in addition to the presentations, there was a lively Q&A session and discussion. It was a very meaningful time for us, as we were able to receive opinions from outside lecturers and seniors from other groups, in addition to our own and other group members' perspectives.

Next week, we will have a presentation by the second-year group! I am very much looking forward to it.

(1-6 伴野朱香)



校内ブランドサミット

甲府第一高等学校では、1月12、19日に、校内ブランドサミットが行われた。探究科一年生と二年生の合同で行われるこのイベントでは、一年生は日本語でのポスターセッション、二年生が英語でのスライドを使ったプレゼンを行う。どの班も準備の結果を発揮できており、今後の発表・プレゼン「山梨ブランドサミット」3月20日(水)にも活きる経験ができたイベントであった。

On January 12 and 19, Kofu First High School held an on-campus brand summit. In this event for first-year and second-year inquiry students, the first-year students give a poster session in Japanese and the second-year students give a slide presentation in English. All groups were able to demonstrate the results of their preparation, and the event was an experience that will be useful for future presentations and presentations.
(2-6 Tanzawa)



WWL コンソーシアム構築支援事業アンケート 分析結果報告

【報告の概要】

1. 用いたデータ
2. 分析の概要
3. 分析結果
 - 3.2 学年別集計
 - 3.2 主観的な効果評価（振り返り）
 - 3.3 第1回・第2回調査間の変化についての評価
4. 結果のまとめ

1. 分析に用いたデータ

前期（2023年9月8日～10月17日）に実施された第1回アンケート調査の回答者172名、後期（2024年1月16日～1月28日）に実施された第2回のアンケート調査の回答者170名のうち、2回の回答の結合が可能だった170名を分析対象とした。

2. 分析の概要

①学年別集計、②主観的な効果評価（振り返り）、③第1回・第2回調査間の変化についての評価の3つを行った。

- ① 学年別集計は取り組みの効果評価を行う前提として、学年によって参加期間が異なることによる意欲等の違いをあらかじめ確認しておくために行った。学年別の取り組みの姿勢・やりがいの違い（第1回調査の間2・3）、伸ばしたい力（第1回調査の間4～6）の回答割合を集計した。
- ② 主観的な効果評価（振り返り）は、取り組みによって生徒自身が感じている能力・意欲の向上を把握するために行った。取り組みによって伸びた力（第2回調査の間4～6）、海外の高校生や大学生等と交流を通して得られたもの（第2回調査の間15）の回答を集計した。
- ③ 第1回・第2回調査間の変化についての評価は、思い出しによるバイアスが生じる可能性がある②の主観的な評価よりもよりバイアスの少ない評価を行うことを意図して、第1回の回答と第2回の回答の変化についての評価を行った。

3. 分析結果

3.1 学年別集計結果（第1回アンケートより）

学年別の探究活動への取り組み姿勢についての回答の学年別集計結果を表1に示した。「積極的に取り組んでいる」と回答した割合は1年生で最も高かった。一方で1年生のうち4名は「探究活動にまだ取り組んでいない」と回答していた。「どちらかという積極的に取り組んでいない」と回答した割合は学年が上がるほど大きくなっていった。

表1 学年別の探究活動への取り組み姿勢

id (学年)		探究活動 にまだ取 り組んで いない	積極的に 取り組ん でいない	どちらかとい うと積極的 に取り組んで いない	どちらかとい うと積極 的に取り組 んでいる	積極的に取 り組んでい る	計
21 (3年)	回答数	0	1	7	25	23	56
	割合(%)	0.0	1.8	12.5	44.6	41.1	100.0
22 (2年)	回答数	0	0	6	28	23	57
	割合(%)	0.0	0.0	10.5	49.1	40.4	100.0
23 (1年)	回答数	4	0	5	21	27	57
	割合(%)	7.0	0.0	8.8	36.8	47.4	100.0
全体	回答数	4	1	18	74	73	170
	割合(%)	2.4	0.6	10.6	43.5	42.9	100.0

探究活動を通して伸ばしたい力についての回答の学年別集計結果を表2に示した。多くの項目において、3年生で最も割合が高く、2年生で低い傾向がみられた。「全員が納得できるように意見をまとめる力」については学年が下がるほど回答割合が高かった。

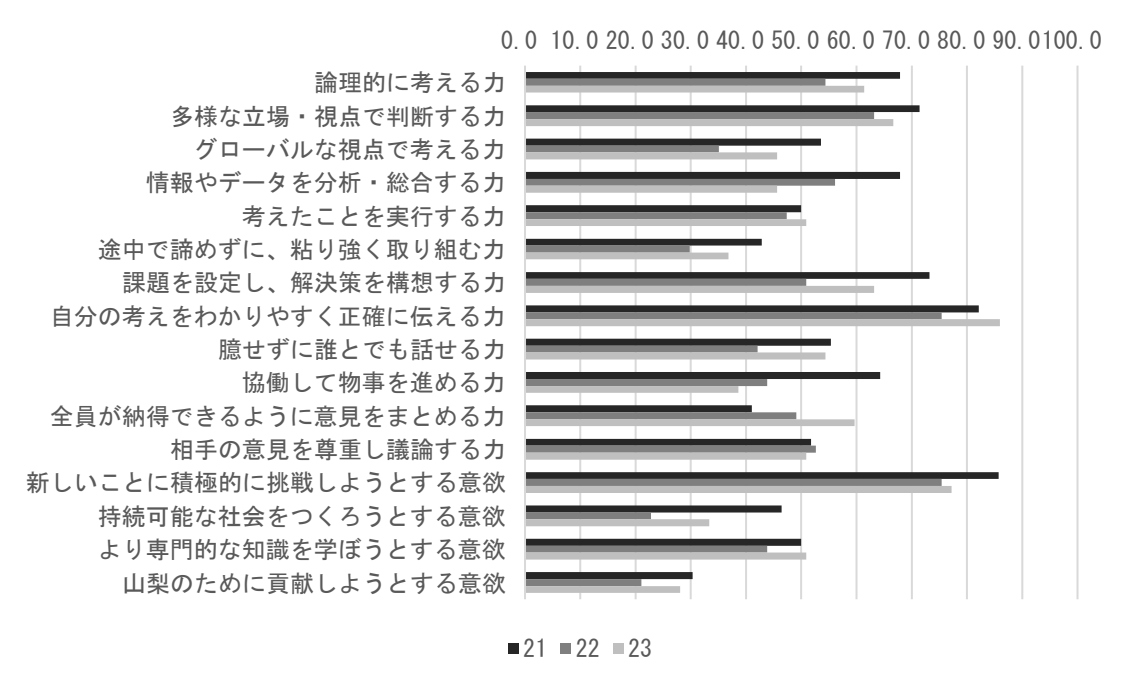


図1 探究活動を通して伸ばしたい力

3.2 主観的な効果評価（振り返り）

3.2.1 探究活動を通して伸びた力（表2，複数回答）

取り組みによって伸びた力として最も多く回答されたのは「自分の考えをわかりやすく正確に伝える力（81.2%）」、次いで「新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲（79.4%）」であり、約8割の生徒が回答していた。一方、スケールが大きい内容の項目については、「持続可能な社会をつくろうとする意欲（34.1%）」「山梨のために貢献しようとする意欲（26.5%）」と比較的低い割合となっていた。

表2 探究活動を通して伸びた力

順位	回答項目	回答数	割合 (%)
1	自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	138	81.2
2	新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	135	79.4
3	多様な立場・視点で判断する力	114	67.1
4	課題を設定し、解決策を構想する力	106	62.4
5	論理的に考える力	104	61.2
6	情報やデータを分析・総合する力	96	56.5
7	相手の意見を尊重し議論する力	88	51.8
8	臆せずに誰とでも話せる力	86	50.6
9	全員が納得できるように意見をまとめる力	85	50.0
10	考えたことを実行する力	84	49.4
11	協働して物事を進める力	83	48.8
12	より専門的な知識を学ぼうとする意欲	82	48.2
13	グローバルな視点で考える力	76	44.7
14	途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	62	36.5
15	持続可能な社会をつくろうとする意欲	58	34.1
16	山梨のために貢献しようとする意欲	45	26.5

※質問文 （第2回調査）「探究活動を通して、「伸びた力」を選んでください。」

3.2.2 海外の高校生や大学生等と交流を通して得られた成果

表3に回答を得点化した場合の(大変そう思う=4, そう思う=3, あまり思わない=2, 思わない=1)各項目の平均値を示した。項目間で大きな差は見られないが、平均点が高かったのは「新しい価値観や視野」「日本文化や日本社会の特性」で共に3.3点であった。低かったのは「海外の人との会話の自信」で2.9点であった。

回答者別の割合を図2に示した。「大変そう思う」「そう思う」を合わせた割合は、ほとんどの項目で8割を超えていた。「海外の人との会話の自信」のみは約7割であった。

表3 海外の高校生や大学生等と交流を通して得られた成果(平均点)

回答項目	平均点
新しい価値観や視野	3.3
発想の着眼点や視点	3.1
日本文化や日本社会の特性	3.3
英語によるコミュニケーションの力	3.2
英語によるディスカッションの力	3.2
英語によるプレゼンテーションの力	3.1
英語学習の意義	3.2
海外の人との会話の自信	2.9

※質問文 海外の高校生や大学生等と交流を通して、次のことを得られたと思いますか

(大変そう思う そう思う あまり思わない 思わない わからない)で回答 「わからない」は欠損値として扱った。

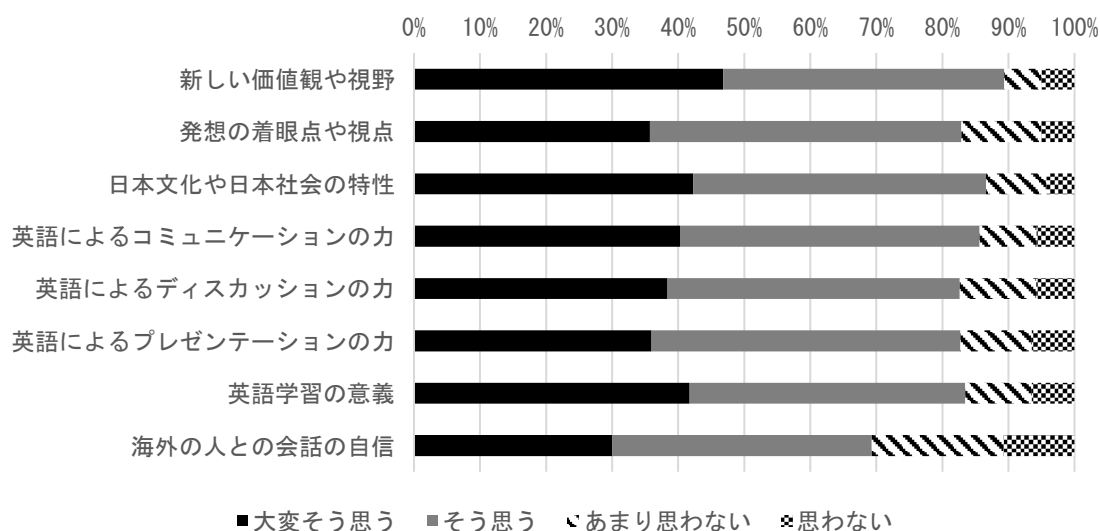


図2 海外の高校生や大学生等と交流を通して得られた成果の回答割合

3.3 第1回・第2回調査間の変化についての評価

3.3.1 全体の集計結果

回答者が持っている力や意欲（16項目）の変化の割合をみた。第1回、第2回アンケートの2回にわたって「次の力や意欲は、今のあなたにどの程度あると思いますか」と尋ね、「これまでの経験から十分にある」「他人と比較して優っている」「ある程度はあると思う」「少しはあると思うが自信はない」「経験がなく全くない」の選択肢から回答を求めた。この解答の組み合わせから、「A. 「経験がなく全くない」を維持」「B. 低下」「C. 維持」「D. 向上」「E. 「これまでの経験から十分にある」を維持」の5つに分類し割合を求めた。

「D.向上」の割合が最も高かったのは「グローバルな視点で考える力（37.6%）」であり、次いで割合が高かったのは「情報やデータを分析・総合する力（34.7%）」「全員が納得できるように意見をまとめる力（33.5%）」であった。DとEの計の割合が高かったのは、「情報やデータを分析・総合する力（44.1%）」、「グローバルな視点で考える力（42.4%）」「より専門的な知識を学ぼうとする意欲（42.4%）」であった。

表4 回答者が持っている力や意欲の変化の割合

	A. 「経験がなく全くない」を維持	B. 低下	C. 維持	D. 向上	E. 「これまでの経験から十分にある」を維持	DとEの計
論理的に考える力	0.0	17.6	44.7	30.0	7.6	37.6
多様な立場・視点で判断する力	0.0	22.4	40.0	29.4	8.2	37.6
グローバルな視点で考える力	0.0	22.4	35.3	37.6	4.7	42.4
情報やデータを分析・総合する力	0.0	22.9	32.9	34.7	9.4	44.1
考えたことを実行する力	0.0	21.8	39.4	28.2	10.6	38.8
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	0.0	27.1	31.2	28.2	13.5	41.8
課題を設定し、解決策を構想する力	0.0	18.8	43.5	25.3	12.4	37.6
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	0.0	27.1	38.2	25.3	9.4	34.7
臆せずに誰とでも話せる力	1.2	30.6	34.1	23.5	10.6	34.1
協働して物事を進める力	0.6	26.5	34.7	24.7	13.5	38.2
全員が納得できるように意見をまとめる力	0.0	27.6	32.9	33.5	5.9	39.4
相手の意見を尊重し議論する力	0.0	32.4	31.8	28.2	7.6	35.9
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	0.0	25.9	32.4	27.6	14.1	41.8
持続可能な社会をつくらうとする意欲	0.6	23.5	34.1	32.9	8.8	41.8
より専門的な知識を学ぼうとする意欲	0.0	28.8	28.8	30.0	12.4	42.4
山梨のために貢献しようとする意欲	1.2	26.5	32.4	31.2	8.8	40.0

3.3.2 学年別集計結果

学年別にみると、多くの項目は3年生で高い項目と1年生で高い割合を示した。他学年に比べて3年生で高い割合を示したのは、「情報やデータを分析・総合する力」「途中で諦めずに、粘り強く取り組む力」「課題を設定し、解決策を構想する力」「協働して物事を進める力」「全員が納得できるように意見をまとめる力」と、協力して問題の提起と分析を進める力に関する項目であった。一方、1年生で高い割合を示したのは「論理的に考える力」「多様な立場・視点で判断する力」「グローバルな視点で考える力」「臆せずに誰とでも話せる力」「相手の意見を尊重し議論する力」「持続可能な社会をつくろうとする意欲」「山梨のために貢献しようとする意欲」と基礎的な力、意欲に関する項目が多くみられた。

表5 回答者が持っている力や意欲の変化の割合（学年別）

項目	学年	A. 「経験がなく全くない」を維持	B. 低下	C. 維持	D. 向上	E. 「これまでの経験から十分に『ある』を維持	DとEの計
論理的に考える力	23	0.0	19.6	32.1	35.7	12.5	48.2
	22	0.0	17.5	50.9	26.3	5.3	31.6
	21	0.0	15.8	50.9	28.1	5.3	33.3
多様な立場・視点で判断する力	23	0.0	25.0	28.6	32.1	14.3	46.4
	22	0.0	22.8	45.6	26.3	5.3	31.6
	21	0.0	19.3	45.6	29.8	5.3	35.1
グローバルな視点で考える力	23	0.0	17.9	35.7	39.3	7.1	46.4
	22	0.0	19.3	40.4	35.1	5.3	40.4
	21	0.0	29.8	29.8	38.6	1.8	40.4
情報やデータを分析・総合する力	23	0.0	16.1	32.1	33.9	17.9	51.8
	22	0.0	29.8	29.8	33.3	7.0	40.4
	21	0.0	22.8	36.8	36.8	3.5	40.4
考えたことを実行する力	23	0.0	21.4	37.5	25.0	16.1	41.1
	22	0.0	26.3	42.1	22.8	8.8	31.6
	21	0.0	17.5	38.6	36.8	7.0	43.9
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	23	0.0	28.6	32.1	23.2	16.1	39.3
	22	0.0	28.1	31.6	28.1	12.3	40.4
	21	0.0	24.6	29.8	33.3	12.3	45.6
課題を設定し、解決策を構想する力	23	0.0	17.9	33.9	26.8	21.4	48.2
	22	0.0	19.3	54.4	17.5	8.8	26.3
	21	0.0	19.3	42.1	31.6	7.0	38.6
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	23	0.0	26.8	28.6	28.6	16.1	44.6
	22	0.0	17.5	45.6	29.8	7.0	36.8
	21	0.0	36.8	40.4	17.5	5.3	22.8
臆せずに誰とでも話せる力	23	0.0	33.9	25.0	26.8	14.3	41.1
	22	1.8	21.1	42.1	24.6	10.5	35.1
	21	1.8	36.8	35.1	19.3	7.0	26.3
協働して物事を進める力	23	0.0	21.4	30.4	25.0	23.2	48.2
	22	1.8	24.6	42.1	22.8	8.8	31.6
	21	0.0	33.3	31.6	26.3	8.8	35.1
全員が納得できるように意見をまとめる力	23	0.0	28.6	23.2	35.7	12.5	48.2
	22	0.0	21.1	47.4	28.1	3.5	31.6
	21	0.0	33.3	28.1	36.8	1.8	38.6
相手の意見を尊重し議論する力	23	0.0	32.1	17.9	37.5	12.5	50.0
	22	0.0	26.3	43.9	21.1	8.8	29.8
	21	0.0	38.6	33.3	26.3	1.8	28.1
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	23	0.0	23.2	32.1	21.4	23.2	44.6
	22	0.0	26.3	29.8	31.6	12.3	43.9
	21	0.0	28.1	35.1	29.8	7.0	36.8
持続可能な社会をつくろうとする意欲	23	0.0	19.6	28.6	35.7	16.1	51.8
	22	1.8	21.1	42.1	28.1	7.0	35.1
	21	0.0	29.8	31.6	35.1	3.5	38.6
より専門的な知識を学ぼうとする意欲	23	0.0	32.1	17.9	28.6	21.4	50.0
	22	0.0	26.3	29.8	33.3	10.5	43.9
	21	0.0	28.1	38.6	28.1	5.3	33.3
山梨のために貢献しようとする意欲	23	0.0	23.2	26.8	37.5	12.5	50.0
	22	1.8	26.3	33.3	29.8	8.8	38.6
	21	1.8	29.8	36.8	26.3	5.3	31.6

3.3.3 積極性別の集計結果

「探究活動にまだ取り組んでいない」「積極的に取り組んでいない」については回答者数が少なく割合が安定しないため、他の回答についてみると、全体的に「積極的に取り組んでいる」で「D.向上」「DとEの計」の割合が高くなっていった。

表6 積極性別の回答者が持っている力や意欲の変化の割合（課題解決関連項目）

項目	態度	n	A	B	C	D	E	DとEの計
論理的に考える力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかという積極的に取り組んでいない	18	0.0	5.6	44.4	50.0	0.0	50.0
	どちらかという積極的に取り組んでいる	74	0.0	23.0	50.0	24.3	2.7	27.0
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	15.1	38.4	31.5	15.1	46.6
多様な立場・視点で判断する力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかという積極的に取り組んでいない	18	0.0	0.0	55.6	38.9	5.6	44.4
	どちらかという積極的に取り組んでいる	74	0.0	25.7	52.7	17.6	4.1	21.6
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	24.7	23.3	38.4	13.7	52.1
グローバルな視点で考える力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	どちらかという積極的に取り組んでいない	18	0.0	5.6	33.3	61.1	0.0	61.1
	どちらかという積極的に取り組んでいる	74	0.0	21.6	40.5	36.5	1.4	37.8
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	24.7	31.5	34.2	9.6	43.8
情報やデータを分析・総合する力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかという積極的に取り組んでいない	18	0.0	16.7	55.6	27.8	0.0	27.8
	どちらかという積極的に取り組んでいる	74	0.0	27.0	39.2	27.0	6.8	33.8
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	20.5	20.5	43.8	15.1	58.9
考えたことを実行する力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	どちらかという積極的に取り組んでいない	18	0.0	16.7	44.4	38.9	0.0	38.9
	どちらかという積極的に取り組んでいる	74	0.0	24.3	44.6	27.0	4.1	31.1
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	20.5	30.1	28.8	20.5	49.3
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかという積極的に取り組んでいない	18	0.0	16.7	38.9	33.3	11.1	44.4
	どちらかという積極的に取り組んでいる	74	0.0	31.1	36.5	27.0	5.4	32.4
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	27.4	20.5	28.8	23.3	52.1
課題を設定し、解決策を構想する力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	どちらかという積極的に取り組んでいない	18	0.0	5.6	50.0	44.4	0.0	44.4
	どちらかという積極的に取り組んでいる	74	0.0	16.2	54.1	25.7	4.1	29.7
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	24.7	31.5	19.2	24.7	43.8

表7 積極性別の回答者が持っている力や意欲の変化の割合（コミュニケーション・協働関連項目）

項目	態度	n	A	B	C	D	E	DとEの計
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	11.1	44.4	38.9	5.6	44.4
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	0.0	28.4	44.6	23.0	4.1	27.0
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	30.1	28.8	24.7	16.4	41.1
臆せず誰とでも話せる力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	22.2	38.9	33.3	5.6	38.9
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	1.4	28.4	45.9	18.9	5.4	24.3
	積極的に取り組んでいる	73	1.4	35.6	20.5	24.7	17.8	42.5
協働して物事を進める力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	50.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	0.0	44.4	50.0	5.6	55.6
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	1.4	35.1	41.9	17.6	4.1	21.6
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	24.7	26.0	23.3	26.0	49.3
全員が納得できるように意見をまとめる力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	66.7
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	0.0	29.7	41.9	27.0	1.4	28.4
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	31.5	23.3	32.9	12.3	45.2
相手の意見を尊重し議論する力	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	11.1	33.3	55.6	0.0	55.6
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	0.0	37.8	35.1	24.3	2.7	27.0
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	34.2	26.0	24.7	15.1	39.7

表8 積極性別の回答者が持っている力や意欲の変化の割合（意欲関連項目）

項目	態度	n	A	B	C	D	E	DとEの計
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	33.3	33.3	27.8	5.6	33.3
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	0.0	24.3	39.2	28.4	8.1	36.5
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	26.0	23.3	27.4	23.3	50.7
持続可能な社会をつくらうとする意欲	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	11.1	50.0	38.9	0.0	38.9
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	1.4	21.6	41.9	32.4	2.7	35.1
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	30.1	20.5	31.5	17.8	49.3
より専門的な知識を学ぼうとする意欲	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	16.7	50.0	27.8	5.6	33.3
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	0.0	28.4	31.1	32.4	8.1	40.5
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	34.2	19.2	27.4	19.2	46.6
山梨のために貢献しようとする意欲	探究活動にまだ取り組んでいない	4	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	25.0
	積極的に取り組んでいない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	どちらかというと積極的に取り組んでいない	18	0.0	16.7	27.8	55.6	0.0	55.6
	どちらかというと積極的に取り組んでいる	74	2.7	23.0	41.9	25.7	6.8	32.4
	積極的に取り組んでいる	73	0.0	32.9	21.9	31.5	13.7	45.2

3.3.4 役割別の集計

表9に、役割がない者に対しある者で力や意欲の「向上」割合が高かった項目をまとめた。最も多い項目で「向上」の割合が高かったのはソーシャルメディア係であり、特に意欲の関連項目で「向上」の割合が高かった。班長・副班長は共通して「論理的に考える力」「多様な立場・視点で判断する力」の向上割合が高く、副班長はコミュニケーション・協働関連項目で高いという特徴がみられた。詳細な結果は表10～13に示した。

表9 役割がない者に対しある者で力や意欲の「向上」割合が高かった項目

項目	班長	副班長	文書係	ソーシャルメディア係
論理的に考える力	○	○		○
多様な立場・視点で判断する力	○	○		
グローバルな視点で考える力			○	○
情報やデータを分析・総合する力				
考えたことを実行する力	○		○	
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	○		○	○
課題を設定し、解決策を構想する力		○		○
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力		◎		○
臆せずに誰とでも話せる力		○		○
協働して物事を進める力		○		○
全員が納得できるように意見をまとめる力	○			○
相手の意見を尊重し議論する力	○			
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	○			◎
持続可能な社会をつくろうとする意欲				◎
より専門的な知識を学ぼうとする意欲		◎		◎
山梨のために貢献しようとする意欲				◎

※該当する役割がない者に対してある者で「D. 向上」の割合が少しでも高い場合に「○」、10ポイント以上高い場合に「◎」とした。

表 10 役割の有無別の力や意欲の変化の割合（班長）

		n	A	B	C	D	E	D+E
論理的に考える力	班長非担当	131	0.0	17.6	46.6	29.0	6.9	35.9
	班長担当	39	0.0	17.9	38.5	33.3	10.3	43.6
多様な立場・視点で判断する力	班長非担当	131	0.0	20.6	42.0	29.0	8.4	37.4
	班長担当	39	0.0	28.2	33.3	30.8	7.7	38.5
グローバルな視点で考える力	班長非担当	131	0.0	21.4	34.4	38.9	5.3	44.3
	班長担当	39	0.0	25.6	38.5	33.3	2.6	35.9
情報やデータを分析・総合する力	班長非担当	131	0.0	23.7	32.1	35.1	9.2	44.3
	班長担当	39	0.0	20.5	35.9	33.3	10.3	43.6
考えたことを実行する力	班長非担当	131	0.0	21.4	42.7	26.0	9.9	35.9
	班長担当	39	0.0	23.1	28.2	35.9	12.8	48.7
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	班長非担当	131	0.0	28.2	31.3	27.5	13.0	40.5
	班長担当	39	0.0	23.1	30.8	30.8	15.4	46.2
課題を設定し、解決策を構想する力	班長非担当	131	0.0	19.8	42.0	27.5	10.7	38.2
	班長担当	39	0.0	15.4	48.7	17.9	17.9	35.9
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	班長非担当	131	0.0	26.0	38.9	26.7	8.4	35.1
	班長担当	39	0.0	30.8	35.9	20.5	12.8	33.3
臆せずに誰とでも話せる力	班長非担当	131	0.8	31.3	32.8	24.4	10.7	35.1
	班長担当	39	2.6	28.2	38.5	20.5	10.3	30.8
協働して物事を進める力	班長非担当	131	0.8	29.0	34.4	23.7	12.2	35.9
	班長担当	39	0.0	17.9	35.9	28.2	17.9	46.2
全員が納得できるように意見をまとめる力	班長非担当	131	0.0	32.1	29.8	32.8	5.3	38.2
	班長担当	39	0.0	12.8	43.6	35.9	7.7	43.6
相手の意見を尊重し議論する力	班長非担当	131	0.0	35.9	29.8	27.5	6.9	34.4
	班長担当	39	0.0	20.5	38.5	30.8	10.3	41.0
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	班長非担当	131	0.0	25.2	35.1	27.5	12.2	39.7
	班長担当	39	0.0	28.2	23.1	28.2	20.5	48.7
持続可能な社会をつくろうとする意欲	班長非担当	131	0.8	22.1	33.6	34.4	9.2	43.5
	班長担当	39	0.0	28.2	35.9	28.2	7.7	35.9
より専門的な知識を学ぼうとする意欲	班長非担当	131	0.0	26.0	30.5	32.8	10.7	43.5
	班長担当	39	0.0	38.5	23.1	20.5	17.9	38.5
山梨のために貢献しようとする意欲	班長非担当	131	1.5	25.2	30.5	34.4	8.4	42.7
	班長担当	39	0.0	30.8	38.5	20.5	10.3	30.8

表 11 役割の有無別の力や意欲の変化の割合（副班長）

		n	A	B	C	D	E	D+E
論理的に考える力	副班長非担当	134	0.0	12.7	50.0	29.1	8.2	37.3
	副班長担当	36	0.0	36.1	25.0	33.3	5.6	38.9
多様な立場・視点で判断する力	副班長非担当	134	0.0	20.9	41.8	28.4	9.0	37.3
	副班長担当	36	0.0	27.8	33.3	33.3	5.6	38.9
グローバルな視点で考える力	副班長非担当	134	0.0	20.1	37.3	38.1	4.5	42.5
	副班長担当	36	0.0	30.6	27.8	36.1	5.6	41.7
情報やデータを分析・総合する力	副班長非担当	134	0.0	20.9	33.6	35.1	10.4	45.5
	副班長担当	36	0.0	30.6	30.6	33.3	5.6	38.9
考えたことを実行する力	副班長非担当	134	0.0	20.9	38.8	28.4	11.9	40.3
	副班長担当	36	0.0	25.0	41.7	27.8	5.6	33.3
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	副班長非担当	134	0.0	23.9	33.6	29.9	12.7	42.5
	副班長担当	36	0.0	38.9	22.2	22.2	16.7	38.9
課題を設定し、解決策を構想する力	副班長非担当	134	0.0	17.9	44.8	23.9	13.4	37.3
	副班長担当	36	0.0	22.2	38.9	30.6	8.3	38.9
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	副班長非担当	134	0.0	26.1	38.8	23.1	11.9	35.1
	副班長担当	36	0.0	30.6	36.1	33.3	0.0	33.3
臆せずに誰とでも話せる力	副班長非担当	134	1.5	28.4	36.6	23.1	10.4	33.6
	副班長担当	36	0.0	38.9	25.0	25.0	11.1	36.1
協働して物事を進める力	副班長非担当	134	0.0	23.1	38.8	23.9	14.2	38.1
	副班長担当	36	2.8	38.9	19.4	27.8	11.1	38.9
全員が納得できるように意見をまとめる力	副班長非担当	134	0.0	22.4	36.6	34.3	6.7	41.0
	副班長担当	36	0.0	47.2	19.4	30.6	2.8	33.3
相手の意見を尊重し議論する力	副班長非担当	134	0.0	28.4	34.3	28.4	9.0	37.3
	副班長担当	36	0.0	47.2	22.2	27.8	2.8	30.6
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	副班長非担当	134	0.0	23.9	32.1	28.4	15.7	44.0
	副班長担当	36	0.0	33.3	33.3	25.0	8.3	33.3
持続可能な社会をつくろうとする意欲	副班長非担当	134	0.0	20.9	36.6	33.6	9.0	42.5
	副班長担当	36	2.8	33.3	25.0	30.6	8.3	38.9
より専門的な知識を学ぼうとする意欲	副班長非担当	134	0.0	29.1	30.6	26.9	13.4	40.3
	副班長担当	36	0.0	27.8	22.2	41.7	8.3	50.0
山梨のために貢献しようとする意欲	副班長非担当	134	0.7	24.6	34.3	32.1	8.2	40.3
	副班長担当	36	2.8	33.3	25.0	27.8	11.1	38.9

表 12 役割の有無別の力や意欲の変化の割合（文書係）

		n	A	B	C	D	E	D+E
論理的に考える力	文書係非担当	119	0.0	19.3	40.3	33.6	6.7	40.3
	文書係担当	51	0.0	13.7	54.9	21.6	9.8	31.4
多様な立場・視点で判断する力	文書係非担当	119	0.0	23.5	38.7	29.4	8.4	37.8
	文書係担当	51	0.0	19.6	43.1	29.4	7.8	37.3
グローバルな視点で考える力	文書係非担当	119	0.0	25.2	34.5	36.1	4.2	40.3
	文書係担当	51	0.0	15.7	37.3	41.2	5.9	47.1
情報やデータを分析・総合する力	文書係非担当	119	0.0	22.7	32.8	35.3	9.2	44.5
	文書係担当	51	0.0	23.5	33.3	33.3	9.8	43.1
考えたことを実行する力	文書係非担当	119	0.0	22.7	39.5	27.7	10.1	37.8
	文書係担当	51	0.0	19.6	39.2	29.4	11.8	41.2
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	文書係非担当	119	0.0	27.7	34.5	26.9	10.9	37.8
	文書係担当	51	0.0	25.5	23.5	31.4	19.6	51.0
課題を設定し、解決策を構想する力	文書係非担当	119	0.0	17.6	44.5	25.2	12.6	37.8
	文書係担当	51	0.0	21.6	41.2	25.5	11.8	37.3
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	文書係非担当	119	0.0	27.7	36.1	27.7	8.4	36.1
	文書係担当	51	0.0	25.5	43.1	19.6	11.8	31.4
臆せずに誰とでも話せる力	文書係非担当	119	1.7	30.3	35.3	24.4	8.4	32.8
	文書係担当	51	0.0	31.4	31.4	21.6	15.7	37.3
協働して物事を進める力	文書係非担当	119	0.8	24.4	33.6	27.7	13.4	41.2
	文書係担当	51	0.0	31.4	37.3	17.6	13.7	31.4
全員が納得できるように意見をまとめる力	文書係非担当	119	0.0	28.6	31.9	35.3	4.2	39.5
	文書係担当	51	0.0	25.5	35.3	29.4	9.8	39.2
相手の意見を尊重し議論する力	文書係非担当	119	0.0	33.6	31.1	29.4	5.9	35.3
	文書係担当	51	0.0	29.4	33.3	25.5	11.8	37.3
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	文書係非担当	119	0.0	23.5	33.6	30.3	12.6	42.9
	文書係担当	51	0.0	31.4	29.4	21.6	17.6	39.2
持続可能な社会をつくろうとする意欲	文書係非担当	119	0.8	24.4	32.8	33.6	8.4	42.0
	文書係担当	51	0.0	21.6	37.3	31.4	9.8	41.2
より専門的な知識を学ぼうとする意欲	文書係非担当	119	0.0	29.4	28.6	31.9	10.1	42.0
	文書係担当	51	0.0	27.5	29.4	25.5	17.6	43.1
山梨のために貢献しようとする意欲	文書係非担当	119	0.8	27.7	30.3	32.8	8.4	41.2
	文書係担当	51	2.0	23.5	37.3	27.5	9.8	37.3

表 13 役割の有無別の力や意欲の変化の割合（ソーシャルメディア係）

		n	A	B	C	D	E	D+E
論理的に考える力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	20.2	42.9	28.6	8.4	37.0
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	11.8	49.0	33.3	5.9	39.2
多様な立場・視点で判断する力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	21.8	39.5	30.3	8.4	38.7
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	23.5	41.2	27.5	7.8	35.3
グローバルな視点で考える力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	21.0	39.5	35.3	4.2	39.5
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	25.5	25.5	43.1	5.9	49.0
情報やデータを分析・総合する力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	21.0	35.3	34.5	9.2	43.7
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	27.5	27.5	35.3	9.8	45.1
考えたことを実行する力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	20.2	41.2	30.3	8.4	38.7
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	25.5	35.3	23.5	15.7	39.2
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	28.6	31.1	26.1	14.3	40.3
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	23.5	31.4	33.3	11.8	45.1
課題を設定し、解決策を構想する力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	17.6	47.1	23.5	11.8	35.3
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	21.6	35.3	29.4	13.7	43.1
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	25.2	42.0	24.4	8.4	32.8
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	31.4	29.4	27.5	11.8	39.2
臆せずに誰とでも話せる力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.8	31.1	35.3	21.8	10.9	32.8
	ソーシャルメディア係担当	51	2.0	29.4	31.4	27.5	9.8	37.3
協働して物事を進める力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.8	26.9	36.1	23.5	12.6	36.1
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	25.5	31.4	27.5	15.7	43.1
全員が納得できるように意見をまとめる力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	25.2	37.8	31.1	5.9	37.0
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	33.3	21.6	39.2	5.9	45.1
相手の意見を尊重し議論する力	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	31.1	32.8	28.6	7.6	36.1
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	35.3	29.4	27.5	7.8	35.3
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	26.9	33.6	24.4	15.1	39.5
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	23.5	29.4	35.3	11.8	47.1
持続可能な社会をつくろうとする意欲	ソーシャルメディア係非担当	119	0.8	26.1	36.1	27.7	9.2	37.0
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	17.6	29.4	45.1	7.8	52.9
より専門的な知識を学ぼうとする意欲	ソーシャルメディア係非担当	119	0.0	29.4	28.6	26.9	15.1	42.0
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	27.5	29.4	37.3	5.9	43.1
山梨のために貢献しようとする意欲	ソーシャルメディア係非担当	119	1.7	27.7	37.8	22.7	10.1	32.8
	ソーシャルメディア係担当	51	0.0	23.5	19.6	51.0	5.9	56.9

3.3.5 各活動への参加状況別の集計

取り組みの効果を評価するためには、取り組みを行うグループ(介入群)と行わないグループ(対照群)に分けて、取り組み前後の比較を行うことが望ましいが、当事業ではほぼ全員が取り組みに参加する、すなわちほぼ全員が介入群となるため事業全体の効果を評価することが難しい。

しかし、各活動の中には、一定数の者が参加しない活動がある。そこで、ここでは大半が参加する「実地調査」「ブランドサミット」以外の6種の活動について、当該活動への参加・不参加による力・意欲の変化に違いがあるかをみた。問8「探究活動を進めるうえで次の活動は効果があったと思いますか？」の質問文に対し「大変そう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」「参加したことがない」で回答する問いの回答を利用し、「参加したことがない」を「参加あり」とし、第1、第2回アンケートの回答を組み合わせて、各活動について「不参加維持」「参加開始」「参加中止」「参加継続」の4群に分類した(表14)。主たる関心は「不参加維持(前後期を通じて不参加)」と「参加開始(前期は参加せず後期参加)」の比較である。

表15に分析結果の概要を示した。不参加維持に対し参加開始群で多くの項目の「向上」がみられたのは「自治体企業等への提案活動」であった。詳細は表16~23に示す。

表14 各活動への参加状況

	実地調査	ブランドサミット	外部コンクール等の大会	自治体企業等への提案活動	イベント等による啓発活動	大学の先取履修	JMOOCのオンライン講座	八ヶ岳SDGsセミナー
不参加維持	5	3	22	30	37	58	67	46
参加開始	30	20	17	29	27	34	28	21
参加中止	3		13	22	19	25	27	21
参加継続	132	147	118	89	87	53	48	82

表15 活動別の不参加維持に対し参加開始群で「向上」割合が高かった項目

	外部コンクール等の大会	自治体企業等への提案活動	イベント等による啓発活動	大学の先取履修	JMOOCのオンライン講座	八ヶ岳SDGsセミナー
論理的に考える力				◎		
多様な立場・視点で判断する力		○	○			
グローバルな視点で考える力	◎					
情報やデータを分析・総合する力		◎	◎	○	◎	○
考えたことを実行する力						
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力		○	○			
課題を設定し、解決策を構想する力		◎		◎	○	
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力	◎	◎	○	○		
臆せずに誰とでも話せる力		○				
協働して物事を進める力						
全員が納得できるように意見をまとめる力						
相手の意見を尊重し議論する力		○				
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲	○	○				
持続可能な社会をつくろうとする意欲	○	◎	○			
より専門的な知識を学ぼうとする意欲		○				
山梨のために貢献しようとする意欲		◎		○	○	○

※未参加継続に対し新規参加で「向上」の割合が大きければ○、さらに未参加継続に対し新規参加で「向上」の割合が10ポイント以上大きければ◎

表 16 論理的に考える力・多様な立場・視点で判断する力

n		A.	B. 低 下	C. 維 持	D. 向 上	E.	DとE の計	
論理的に考える力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	18.2	54.5	27.3	0.0	27.3
	参加開始	17	0.0	23.5	64.7	11.8	0.0	11.8
	参加中止	13	0.0	23.1	53.8	23.1	0.0	23.1
	参加継続	118	0.0	16.1	39.0	33.9	11.0	44.9
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	20.0	56.7	23.3	0.0	23.3
	参加開始	29	0.0	17.2	51.7	27.6	3.4	31.0
	参加中止	22	0.0	13.6	50.0	36.4	0.0	36.4
	参加継続	89	0.0	18.0	37.1	31.5	13.5	44.9
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	16.2	51.4	27.0	5.4	32.4
	参加開始	27	0.0	11.1	66.7	22.2	0.0	22.2
	参加中止	19	0.0	15.8	52.6	31.6	0.0	31.6
	参加継続	87	0.0	20.7	33.3	33.3	12.6	46.0
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	15.5	56.9	22.4	5.2	27.6
	参加開始	34	0.0	20.6	41.2	38.2	0.0	38.2
	参加中止	25	0.0	16.0	32.0	48.0	4.0	52.0
	参加継続	53	0.0	18.9	39.6	24.5	17.0	41.5
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	16.4	50.7	29.9	3.0	32.8
	参加開始	28	0.0	17.9	53.6	28.6	0.0	28.6
	参加中止	27	0.0	18.5	44.4	33.3	3.7	37.0
	参加継続	48	0.0	18.8	31.3	29.2	20.8	50.0
八ヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	13.0	56.5	23.9	6.5	30.4
	参加開始	21	0.0	23.8	52.4	23.8	0.0	23.8
	参加中止	21	0.0	28.6	38.1	33.3	0.0	33.3
	参加継続	82	0.0	15.9	37.8	34.1	12.2	46.3
多様な立場・視点で判断する力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	18.2	45.5	36.4	0.0	36.4
	参加開始	17	0.0	35.3	29.4	35.3	0.0	35.3
	参加中止	13	0.0	23.1	61.5	15.4	0.0	15.4
	参加継続	118	0.0	21.2	38.1	28.8	11.9	40.7
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	13.3	56.7	30.0	0.0	30.0
	参加開始	29	0.0	31.0	34.5	34.5	0.0	34.5
	参加中止	22	0.0	13.6	54.5	31.8	0.0	31.8
	参加継続	89	0.0	24.7	32.6	27.0	15.7	42.7
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	16.2	48.6	35.1	0.0	35.1
	参加開始	27	0.0	25.9	44.4	29.6	0.0	29.6
	参加中止	19	0.0	15.8	57.9	26.3	0.0	26.3
	参加継続	87	0.0	25.3	31.0	27.6	16.1	43.7
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	13.8	50.0	32.8	3.4	36.2
	参加開始	34	0.0	32.4	32.4	35.3	0.0	35.3
	参加中止	25	0.0	16.0	40.0	36.0	8.0	44.0
	参加継続	53	0.0	28.3	34.0	18.9	18.9	37.7
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	14.9	46.3	37.3	1.5	38.8
	参加開始	28	0.0	32.1	35.7	32.1	0.0	32.1
	参加中止	27	0.0	25.9	44.4	22.2	7.4	29.6
	参加継続	48	0.0	25.0	31.3	20.8	22.9	43.8
八ヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	8.7	52.2	34.8	4.3	39.1
	参加開始	21	0.0	38.1	42.9	19.0	0.0	19.0
	参加中止	21	0.0	33.3	52.4	9.5	4.8	14.3
	参加継続	82	0.0	23.2	29.3	34.1	13.4	47.6

表 17 グローバルな視点で考える力・情報やデータを分析・総合する力

n		A.	B. 低 下	C. 維 持	D. 向 上	E.	DとE の計	
グローバルな視点で考える力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	22.7	31.8	45.5	0.0	45.5
	参加開始	17	0.0	23.5	17.6	58.8	0.0	58.8
	参加中止	13	0.0	46.2	38.5	15.4	0.0	15.4
	参加継続	118	0.0	19.5	38.1	35.6	6.8	42.4
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	23.3	33.3	43.3	0.0	43.3
	参加開始	29	0.0	24.1	31.0	41.4	3.4	44.8
	参加中止	22	0.0	40.9	50.0	9.1	0.0	9.1
	参加継続	89	0.0	16.9	33.7	41.6	7.9	49.4
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	27.0	29.7	43.2	0.0	43.2
	参加開始	27	0.0	11.1	44.4	40.7	3.7	44.4
	参加中止	19	0.0	36.8	52.6	10.5	0.0	10.5
	参加継続	87	0.0	20.7	31.0	40.2	8.0	48.3
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	22.4	32.8	43.1	1.7	44.8
	参加開始	34	0.0	17.6	38.2	38.2	5.9	44.1
	参加中止	25	0.0	24.0	52.0	24.0	0.0	24.0
	参加継続	53	0.0	24.5	28.3	37.7	9.4	47.2
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	22.4	35.8	41.8	0.0	41.8
	参加開始	28	0.0	14.3	42.9	39.3	3.6	42.9
	参加中止	27	0.0	29.6	48.1	22.2	0.0	22.2
	参加継続	48	0.0	22.9	22.9	39.6	14.6	54.2
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	21.7	32.6	43.5	2.2	45.7
	参加開始	21	0.0	19.0	47.6	33.3	0.0	33.3
	参加中止	21	0.0	33.3	47.6	19.0	0.0	19.0
	参加継続	82	0.0	20.7	30.5	40.2	8.5	48.8
情報やデータを分析・総合する力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	27.3	36.4	36.4	0.0	36.4
	参加開始	17	0.0	35.3	29.4	29.4	5.9	35.3
	参加中止	13	0.0	23.1	46.2	30.8	0.0	30.8
	参加継続	118	0.0	20.3	31.4	35.6	12.7	48.3
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	33.3	40.0	26.7	0.0	26.7
	参加開始	29	0.0	27.6	27.6	44.8	0.0	44.8
	参加中止	22	0.0	22.7	45.5	27.3	4.5	31.8
	参加継続	89	0.0	18.0	29.2	36.0	16.9	52.8
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	35.1	40.5	21.6	2.7	24.3
	参加開始	27	0.0	29.6	29.6	40.7	0.0	40.7
	参加中止	19	0.0	31.6	42.1	26.3	0.0	26.3
	参加継続	87	0.0	13.8	28.7	40.2	17.2	57.5
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	31.0	36.2	29.3	3.4	32.8
	参加開始	34	0.0	23.5	29.4	38.2	8.8	47.1
	参加中止	25	0.0	16.0	36.0	44.0	4.0	48.0
	参加継続	53	0.0	17.0	30.2	34.0	18.9	52.8
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	28.4	34.3	32.8	4.5	37.3
	参加開始	28	0.0	21.4	32.1	42.9	3.6	46.4
	参加中止	27	0.0	22.2	37.0	37.0	3.7	40.7
	参加継続	48	0.0	16.7	29.2	31.3	22.9	54.2
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	26.1	41.3	28.3	4.3	32.6
	参加開始	21	0.0	38.1	28.6	33.3	0.0	33.3
	参加中止	21	0.0	14.3	38.1	47.6	0.0	47.6
	参加継続	82	0.0	19.5	28.0	35.4	17.1	52.4

表 18 考えたことを実行する力・途中で諦めずに、粘り強く取り組む力

n		A.	B. 低 下	C. 維 持	D. 向 上	E.	DとE の計	
考えたことを実行する力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	4.5	45.5	40.9	9.1	50.0
	参加開始	17	0.0	17.6	47.1	29.4	5.9	35.3
	参加中止	13	0.0	46.2	30.8	23.1	0.0	23.1
	参加継続	118	0.0	22.9	38.1	26.3	12.7	39.0
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	6.7	50.0	40.0	3.3	43.3
	参加開始	29	0.0	34.5	20.7	31.0	13.8	44.8
	参加中止	22	0.0	27.3	54.5	18.2	0.0	18.2
	参加継続	89	0.0	21.3	38.2	25.8	14.6	40.4
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	8.1	51.4	35.1	5.4	40.5
	参加開始	27	0.0	37.0	29.6	25.9	7.4	33.3
	参加中止	19	0.0	36.8	31.6	31.6	0.0	31.6
	参加継続	87	0.0	19.5	39.1	25.3	16.1	41.4
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	13.8	39.7	39.7	6.9	46.6
	参加開始	34	0.0	32.4	32.4	26.5	8.8	35.3
	参加中止	25	0.0	28.0	44.0	28.0	0.0	28.0
	参加継続	53	0.0	20.8	41.5	17.0	20.8	37.7
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	14.9	40.3	40.3	4.5	44.8
	参加開始	28	0.0	32.1	32.1	21.4	14.3	35.7
	参加中止	27	0.0	29.6	44.4	25.9	0.0	25.9
	参加継続	48	0.0	20.8	39.6	16.7	22.9	39.6
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	6.5	45.7	41.3	6.5	47.8
	参加開始	21	0.0	42.9	33.3	23.8	0.0	23.8
	参加中止	21	0.0	23.8	42.9	28.6	4.8	33.3
	参加継続	82	0.0	24.4	36.6	22.0	17.1	39.0
途中で諦めずに、粘り強く取り組む力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	22.7	27.3	36.4	13.6	50.0
	参加開始	17	0.0	35.3	29.4	29.4	5.9	35.3
	参加中止	13	0.0	30.8	30.8	30.8	7.7	38.5
	参加継続	118	0.0	26.3	32.2	26.3	15.3	41.5
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	26.7	30.0	36.7	6.7	43.3
	参加開始	29	0.0	27.6	20.7	41.4	10.3	51.7
	参加中止	22	0.0	31.8	50.0	18.2	0.0	18.2
	参加継続	89	0.0	25.8	30.3	23.6	20.2	43.8
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	21.6	32.4	37.8	8.1	45.9
	参加開始	27	0.0	33.3	14.8	40.7	11.1	51.9
	参加中止	19	0.0	36.8	42.1	15.8	5.3	21.1
	参加継続	87	0.0	25.3	33.3	23.0	18.4	41.4
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	25.9	29.3	36.2	8.6	44.8
	参加開始	34	0.0	35.3	29.4	26.5	8.8	35.3
	参加中止	25	0.0	24.0	40.0	24.0	12.0	36.0
	参加継続	53	0.0	24.5	30.2	22.6	22.6	45.3
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	28.4	29.9	34.3	7.5	41.8
	参加開始	28	0.0	28.6	32.1	25.0	14.3	39.3
	参加中止	27	0.0	18.5	44.4	29.6	7.4	37.0
	参加継続	48	0.0	29.2	25.0	20.8	25.0	45.8
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	23.9	32.6	34.8	8.7	43.5
	参加開始	21	0.0	38.1	28.6	19.0	14.3	33.3
	参加中止	21	0.0	14.3	38.1	33.3	14.3	47.6
	参加継続	82	0.0	29.3	29.3	25.6	15.9	41.5

表 19 課題を設定し、解決策を構想する力・自分の考えをわかりやすく正確に伝える力

n		A.	B. 低 下	C. 維 持	D. 向 上	E.	DとE の計	
課題を設定し、解決策を構想する力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	27.3	45.5	22.7	4.5	27.3
	参加開始	17	0.0	29.4	41.2	23.5	5.9	29.4
	参加中止	13	0.0	7.7	46.2	46.2	0.0	46.2
	参加継続	118	0.0	16.9	43.2	23.7	16.1	39.8
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	20.0	53.3	23.3	3.3	26.7
	参加開始	29	0.0	17.2	44.8	34.5	3.4	37.9
	参加中止	22	0.0	18.2	54.5	18.2	9.1	27.3
	参加継続	89	0.0	19.1	37.1	24.7	19.1	43.8
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	16.2	54.1	27.0	2.7	29.7
	参加開始	27	0.0	29.6	48.1	14.8	7.4	22.2
	参加中止	19	0.0	21.1	52.6	21.1	5.3	26.3
	参加継続	87	0.0	16.1	35.6	28.7	19.5	48.3
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	17.2	56.9	19.0	6.9	25.9
	参加開始	34	0.0	17.6	44.1	32.4	5.9	38.2
	参加中止	25	0.0	12.0	32.0	48.0	8.0	56.0
	参加継続	53	0.0	24.5	34.0	17.0	24.5	41.5
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	17.9	52.2	23.9	6.0	29.9
	参加開始	28	0.0	14.3	46.4	28.6	10.7	39.3
	参加中止	27	0.0	14.8	40.7	40.7	3.7	44.4
	参加継続	48	0.0	25.0	31.3	16.7	27.1	43.8
八ヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	17.4	52.2	23.9	6.5	30.4
	参加開始	21	0.0	19.0	52.4	23.8	4.8	28.6
	参加中止	21	0.0	14.3	47.6	38.1	0.0	38.1
	参加継続	82	0.0	20.7	35.4	23.2	20.7	43.9
自分の考えをわかりやすく正確に伝える力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	27.3	50.0	13.6	9.1	22.7
	参加開始	17	0.0	29.4	35.3	35.3	0.0	35.3
	参加中止	13	0.0	46.2	38.5	15.4	0.0	15.4
	参加継続	118	0.0	24.6	36.4	27.1	11.9	39.0
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	23.3	60.0	13.3	3.3	16.7
	参加開始	29	0.0	20.7	27.6	44.8	6.9	51.7
	参加中止	22	0.0	45.5	36.4	13.6	4.5	18.2
	参加継続	89	0.0	25.8	34.8	25.8	13.5	39.3
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	18.9	51.4	24.3	5.4	29.7
	参加開始	27	0.0	29.6	40.7	29.6	0.0	29.6
	参加中止	19	0.0	42.1	42.1	15.8	0.0	15.8
	参加継続	87	0.0	26.4	31.0	26.4	16.1	42.5
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	29.3	43.1	22.4	5.2	27.6
	参加開始	34	0.0	29.4	35.3	29.4	5.9	35.3
	参加中止	25	0.0	16.0	40.0	36.0	8.0	44.0
	参加継続	53	0.0	28.3	34.0	20.8	17.0	37.7
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	25.4	43.3	26.9	4.5	31.3
	参加開始	28	0.0	32.1	35.7	25.0	7.1	32.1
	参加中止	27	0.0	25.9	40.7	29.6	3.7	33.3
	参加継続	48	0.0	27.1	31.3	20.8	20.8	41.7
八ヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	28.3	47.8	19.6	4.3	23.9
	参加開始	21	0.0	38.1	38.1	19.0	4.8	23.8
	参加中止	21	0.0	19.0	47.6	28.6	4.8	33.3
	参加継続	82	0.0	25.6	30.5	29.3	14.6	43.9

表 20 臆せずに誰とでも話せる力・協働して物事を進める力

n		A.	B. 低 下	C. 維 持	D. 向 上	E.	DとE の計	
臆せずに誰とでも話せる力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	4.5	31.8	40.9	13.6	9.1	22.7
	参加開始	17	0.0	41.2	41.2	11.8	5.9	17.6
	参加中止	13	0.0	38.5	23.1	30.8	7.7	38.5
	参加継続	118	0.8	28.0	33.1	26.3	11.9	38.1
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	3.3	20.0	50.0	20.0	6.7	26.7
	参加開始	29	0.0	27.6	37.9	20.7	13.8	34.5
	参加中止	22	0.0	40.9	22.7	31.8	4.5	36.4
	参加継続	89	1.1	32.6	30.3	23.6	12.4	36.0
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	2.7	18.9	48.6	24.3	5.4	29.7
	参加開始	27	0.0	29.6	37.0	18.5	14.8	33.3
	参加中止	19	0.0	47.4	26.3	21.1	5.3	26.3
	参加継続	87	1.1	32.2	28.7	25.3	12.6	37.9
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	1.7	25.9	43.1	19.0	10.3	29.3
	参加開始	34	2.9	26.5	41.2	14.7	14.7	29.4
	参加中止	25	0.0	40.0	28.0	32.0	0.0	32.0
	参加継続	53	0.0	34.0	22.6	30.2	13.2	43.4
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	1.5	23.9	41.8	25.4	7.5	32.8
	参加開始	28	3.6	28.6	42.9	7.1	17.9	25.0
	参加中止	27	0.0	44.4	25.9	25.9	3.7	29.6
	参加継続	48	0.0	33.3	22.9	29.2	14.6	43.8
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	2.2	23.9	41.3	19.6	13.0	32.6
	参加開始	21	0.0	33.3	47.6	9.5	9.5	19.0
	参加中止	21	0.0	47.6	28.6	23.8	0.0	23.8
	参加継続	82	1.2	29.3	28.0	29.3	12.2	41.5
協働して物事を進める力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	36.4	31.8	31.8	0.0	31.8
	参加開始	17	0.0	41.2	47.1	5.9	5.9	11.8
	参加中止	13	0.0	30.8	15.4	30.8	23.1	53.8
	参加継続	118	0.8	22.0	35.6	25.4	16.1	41.5
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	26.7	36.7	36.7	0.0	36.7
	参加開始	29	0.0	27.6	41.4	24.1	6.9	31.0
	参加中止	22	4.5	13.6	45.5	27.3	9.1	36.4
	参加継続	89	0.0	29.2	29.2	20.2	21.3	41.6
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	16.2	45.9	35.1	2.7	37.8
	参加開始	27	0.0	33.3	37.0	22.2	7.4	29.6
	参加中止	19	0.0	26.3	31.6	31.6	10.5	42.1
	参加継続	87	1.1	28.7	29.9	19.5	20.7	40.2
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	1.7	22.4	43.1	29.3	3.4	32.8
	参加開始	34	0.0	26.5	35.3	20.6	17.6	38.2
	参加中止	25	0.0	24.0	28.0	36.0	12.0	48.0
	参加継続	53	0.0	32.1	28.3	17.0	22.6	39.6
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	1.5	22.4	41.8	32.8	1.5	34.3
	参加開始	28	0.0	32.1	32.1	14.3	21.4	35.7
	参加中止	27	0.0	25.9	33.3	25.9	14.8	40.7
	参加継続	48	0.0	29.2	27.1	18.8	25.0	43.8
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	23.9	41.3	30.4	4.3	34.8
	参加開始	21	0.0	33.3	33.3	19.0	14.3	33.3
	参加中止	21	4.8	38.1	28.6	19.0	9.5	28.6
	参加継続	82	0.0	23.2	32.9	24.4	19.5	43.9

表 21 全員が納得できるように意見をまとめる力・相手の意見を尊重し議論する力

n		A.	B. 低 下	C. 維 持	D. 向 上	E.	DとE の計	
全員が納得できるように意見をまとめる力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	27.3	27.3	45.5	0.0	45.5
	参加開始	17	0.0	41.2	23.5	35.3	0.0	35.3
	参加中止	13	0.0	38.5	46.2	15.4	0.0	15.4
	参加継続	118	0.0	24.6	33.9	33.1	8.5	41.5
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	16.7	40.0	43.3	0.0	43.3
	参加開始	29	0.0	31.0	31.0	37.9	0.0	37.9
	参加中止	22	0.0	36.4	40.9	22.7	0.0	22.7
	参加継続	89	0.0	28.1	29.2	31.5	11.2	42.7
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	8.1	40.5	48.6	2.7	51.4
	参加開始	27	0.0	37.0	40.7	22.2	0.0	22.2
	参加中止	19	0.0	42.1	36.8	21.1	0.0	21.1
	参加継続	87	0.0	29.9	26.4	33.3	10.3	43.7
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	19.0	41.4	37.9	1.7	39.7
	参加開始	34	0.0	35.3	29.4	35.3	0.0	35.3
	参加中止	25	0.0	28.0	36.0	36.0	0.0	36.0
	参加継続	53	0.0	32.1	24.5	26.4	17.0	43.4
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	19.4	38.8	40.3	1.5	41.8
	参加開始	28	0.0	35.7	35.7	28.6	0.0	28.6
	参加中止	27	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3
	参加継続	48	0.0	31.3	22.9	27.1	18.8	45.8
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	23.9	34.8	39.1	2.2	41.3
	参加開始	21	0.0	38.1	38.1	23.8	0.0	23.8
	参加中止	21	0.0	28.6	47.6	23.8	0.0	23.8
	参加継続	82	0.0	26.8	26.8	35.4	11.0	46.3
相手の意見を尊重し議論する力								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	45.5	27.3	27.3	0.0	27.3
	参加開始	17	0.0	35.3	47.1	17.6	0.0	17.6
	参加中止	13	0.0	30.8	53.8	15.4	0.0	15.4
	参加継続	118	0.0	29.7	28.0	31.4	11.0	42.4
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3
	参加開始	29	0.0	31.0	34.5	34.5	0.0	34.5
	参加中止	22	0.0	36.4	50.0	13.6	0.0	13.6
	参加継続	89	0.0	31.5	25.8	28.1	14.6	42.7
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	27.0	37.8	32.4	2.7	35.1
	参加開始	27	0.0	33.3	48.1	18.5	0.0	18.5
	参加中止	19	0.0	42.1	36.8	15.8	5.3	21.1
	参加継続	87	0.0	32.2	23.0	32.2	12.6	44.8
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	29.3	36.2	31.0	3.4	34.5
	参加開始	34	0.0	32.4	41.2	20.6	5.9	26.5
	参加中止	25	0.0	40.0	28.0	28.0	4.0	32.0
	参加継続	53	0.0	32.1	22.6	30.2	15.1	45.3
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	26.9	35.8	35.8	1.5	37.3
	参加開始	28	0.0	32.1	39.3	21.4	7.1	28.6
	参加中止	27	0.0	44.4	37.0	14.8	3.7	18.5
	参加継続	48	0.0	33.3	18.8	29.2	18.8	47.9
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	30.4	32.6	32.6	4.3	37.0
	参加開始	21	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0	14.3
	参加中止	21	0.0	38.1	42.9	14.3	4.8	19.0
	参加継続	82	0.0	29.3	25.6	32.9	12.2	45.1

表 22 新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲・持続可能な社会をつくろうとする意欲

n		A.	B. 低 下	C. 維 持	D. 向 上	E.	DとE の計	
新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	31.8	36.4	22.7	9.1	31.8
	参加開始	17	0.0	52.9	17.6	29.4	0.0	29.4
	参加中止	13	0.0	15.4	53.8	23.1	7.7	30.8
	参加継続	118	0.0	22.0	31.4	28.8	17.8	46.6
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	30.0	33.3	30.0	6.7	36.7
	参加開始	29	0.0	37.9	20.7	34.5	6.9	41.4
	参加中止	22	0.0	27.3	54.5	18.2	0.0	18.2
	参加継続	89	0.0	20.2	30.3	27.0	22.5	49.4
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	21.6	35.1	35.1	8.1	43.2
	参加開始	27	0.0	51.9	22.2	22.2	3.7	25.9
	参加中止	19	0.0	21.1	52.6	21.1	5.3	26.3
	参加継続	87	0.0	20.7	29.9	27.6	21.8	49.4
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	25.9	32.8	31.0	10.3	41.4
	参加開始	34	0.0	29.4	35.3	20.6	14.7	35.3
	参加中止	25	0.0	16.0	36.0	36.0	12.0	48.0
	参加継続	53	0.0	28.3	28.3	24.5	18.9	43.4
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	26.9	32.8	29.9	10.4	40.3
	参加開始	28	0.0	28.6	39.3	17.9	14.3	32.1
	参加中止	27	0.0	22.2	37.0	33.3	7.4	40.7
	参加継続	48	0.0	25.0	25.0	27.1	22.9	50.0
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	28.3	32.6	28.3	10.9	39.1
	参加開始	21	0.0	33.3	47.6	9.5	9.5	19.0
	参加中止	21	0.0	19.0	38.1	33.3	9.5	42.9
	参加継続	82	0.0	24.4	26.8	30.5	18.3	48.8
持続可能な社会をつくろうとする意欲								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	31.8	31.8	36.4	0.0	36.4
	参加開始	17	0.0	23.5	35.3	41.2	0.0	41.2
	参加中止	13	0.0	46.2	30.8	23.1	0.0	23.1
	参加継続	118	0.8	19.5	34.7	32.2	12.7	44.9
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	30.0	43.3	26.7	0.0	26.7
	参加開始	29	0.0	24.1	27.6	48.3	0.0	48.3
	参加中止	22	4.5	36.4	45.5	13.6	0.0	13.6
	参加継続	89	0.0	18.0	30.3	34.8	16.9	51.7
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	27.0	40.5	32.4	0.0	32.4
	参加開始	27	0.0	22.2	33.3	40.7	3.7	44.4
	参加中止	19	0.0	42.1	36.8	21.1	0.0	21.1
	参加継続	87	1.1	18.4	31.0	33.3	16.1	49.4
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	1.7	20.7	36.2	39.7	1.7	41.4
	参加開始	34	0.0	29.4	32.4	32.4	5.9	38.2
	参加中止	25	0.0	36.0	28.0	24.0	12.0	36.0
	参加継続	53	0.0	17.0	35.8	30.2	17.0	47.2
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	1.5	22.4	34.3	40.3	1.5	41.8
	参加開始	28	0.0	28.6	35.7	28.6	7.1	35.7
	参加中止	27	0.0	33.3	37.0	22.2	7.4	29.6
	参加継続	48	0.0	16.7	31.3	31.3	20.8	52.1
ハヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	28.3	34.8	34.8	2.2	37.0
	参加開始	21	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0	28.6
	参加中止	21	4.8	28.6	38.1	23.8	4.8	28.6
	参加継続	82	0.0	18.3	30.5	35.4	15.9	51.2

表 23 より専門的な知識を学ぼうとする意欲・山梨のために貢献しようとする意欲

n		A.	B. 低 下	C. 維 持	D. 向 上	E.	DとE の計	
より専門的な知識を学ぼうとする意欲								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	0.0	22.7	45.5	27.3	4.5	31.8
	参加開始	17	0.0	35.3	35.3	23.5	5.9	29.4
	参加中止	13	0.0	30.8	38.5	30.8	0.0	30.8
	参加継続	118	0.0	28.8	23.7	31.4	16.1	47.5
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	0.0	23.3	43.3	30.0	3.3	33.3
	参加開始	29	0.0	37.9	24.1	34.5	3.4	37.9
	参加中止	22	0.0	31.8	45.5	13.6	9.1	22.7
	参加継続	89	0.0	27.0	21.3	32.6	19.1	51.7
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	0.0	24.3	35.1	32.4	8.1	40.5
	参加開始	27	0.0	44.4	33.3	22.2	0.0	22.2
	参加中止	19	0.0	31.6	36.8	26.3	5.3	31.6
	参加継続	87	0.0	25.3	23.0	32.2	19.5	51.7
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	0.0	25.9	31.0	31.0	12.1	43.1
	参加開始	34	0.0	52.9	23.5	17.6	5.9	23.5
	参加中止	25	0.0	24.0	28.0	40.0	8.0	48.0
	参加継続	53	0.0	18.9	30.2	32.1	18.9	50.9
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	0.0	28.4	29.9	29.9	11.9	41.8
	参加開始	28	0.0	50.0	25.0	17.9	7.1	25.0
	参加中止	27	0.0	29.6	33.3	33.3	3.7	37.0
	参加継続	48	0.0	16.7	27.1	35.4	20.8	56.3
八ヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	0.0	28.3	32.6	26.1	13.0	39.1
	参加開始	21	0.0	52.4	28.6	14.3	4.8	19.0
	参加中止	21	0.0	23.8	33.3	42.9	0.0	42.9
	参加継続	82	0.0	24.4	25.6	32.9	17.1	50.0
山梨のために貢献しようとする意欲								
外部コンクール等の 大会	不参加維持	22	4.5	22.7	40.9	31.8	0.0	31.8
	参加開始	17	0.0	47.1	29.4	23.5	0.0	23.5
	参加中止	13	0.0	23.1	38.5	30.8	7.7	38.5
	参加継続	118	0.8	24.6	30.5	32.2	11.9	44.1
自治体企業等への提 案活動	不参加維持	30	3.3	26.7	46.7	23.3	0.0	23.3
	参加開始	29	0.0	34.5	20.7	44.8	0.0	44.8
	参加中止	22	4.5	18.2	54.5	22.7	0.0	22.7
	参加継続	89	0.0	25.8	25.8	31.5	16.9	48.3
イベント等による啓 発活動	不参加維持	37	2.7	21.6	43.2	32.4	0.0	32.4
	参加開始	27	0.0	40.7	29.6	29.6	0.0	29.6
	参加中止	19	0.0	21.1	47.4	26.3	5.3	31.6
	参加継続	87	1.1	25.3	25.3	32.2	16.1	48.3
大学（山梨大、山梨 県立大、山形大等） の先取履修	不参加維持	58	3.4	24.1	41.4	29.3	1.7	31.0
	参加開始	34	0.0	35.3	26.5	38.2	0.0	38.2
	参加中止	25	0.0	24.0	32.0	28.0	16.0	44.0
	参加継続	53	0.0	24.5	26.4	30.2	18.9	49.1
JM00C のオンライン 講座	不参加維持	67	3.0	23.9	40.3	31.3	1.5	32.8
	参加開始	28	0.0	32.1	28.6	35.7	3.6	39.3
	参加中止	27	0.0	29.6	33.3	25.9	11.1	37.0
	参加継続	48	0.0	25.0	22.9	31.3	20.8	52.1
八ヶ岳 SDGs セミナ ー	不参加維持	46	2.2	28.3	39.1	28.3	2.2	30.4
	参加開始	21	0.0	38.1	33.3	28.6	0.0	28.6
	参加中止	21	4.8	33.3	23.8	23.8	14.3	38.1
	参加継続	82	0.0	20.7	30.5	35.4	13.4	48.8

3.3.6 ポアソン回帰による力・意欲と活動への参加の関連の検討

ここまで、各要因それぞれと力・意欲の「向上」の割合についての分析結果を示したが、ここでは、「役割」「学年」の影響を統計的に考慮した上で活動への参加が、力・意欲の「向上」に関連しているかを検討した。向上しているか向上していないかの2値変数を目的変数とし、説明変数を各活動への新規参加または未参加継続とし（1種類ずつモデルに投入）、「役割」「学年」を調整変数とした調整ポアソン回帰分析で活動への参加と力・意欲の向上の関連を検討した。

分析の結果、「自治体企業等への提案活動」への新規参加と「自分の考えをわかりやすく正確に伝える力」の向上の有意な関連がみられた。

3.3.7 主観的な力・意欲の向上との対応

表4に示した、2回の調査で把握した力・意欲の「向上」割合と主観的な効果評価（3.2.1 探究活動を通して伸びた力、表2）がどの程度対応しているかをみるため、探究活動を通して伸びた力（主観的）を横軸、2回の調査で把握した力・意欲の「向上」割合を縦軸として散布図を作成した（図3）。この2つの割合はあまり相関しているとはいえないさそうである。点線の近くにある項目は「向上」した割合と「伸びた」と感じている割合が近い項目であることを示している。「持続可能な社会をつくろうとする意欲」「山梨のために貢献しようとする意欲」がこれに当たる。図4は図3と同様に縦軸と「向上」+「これまでの経験から十分にある」を維持」の割合にしたものである。

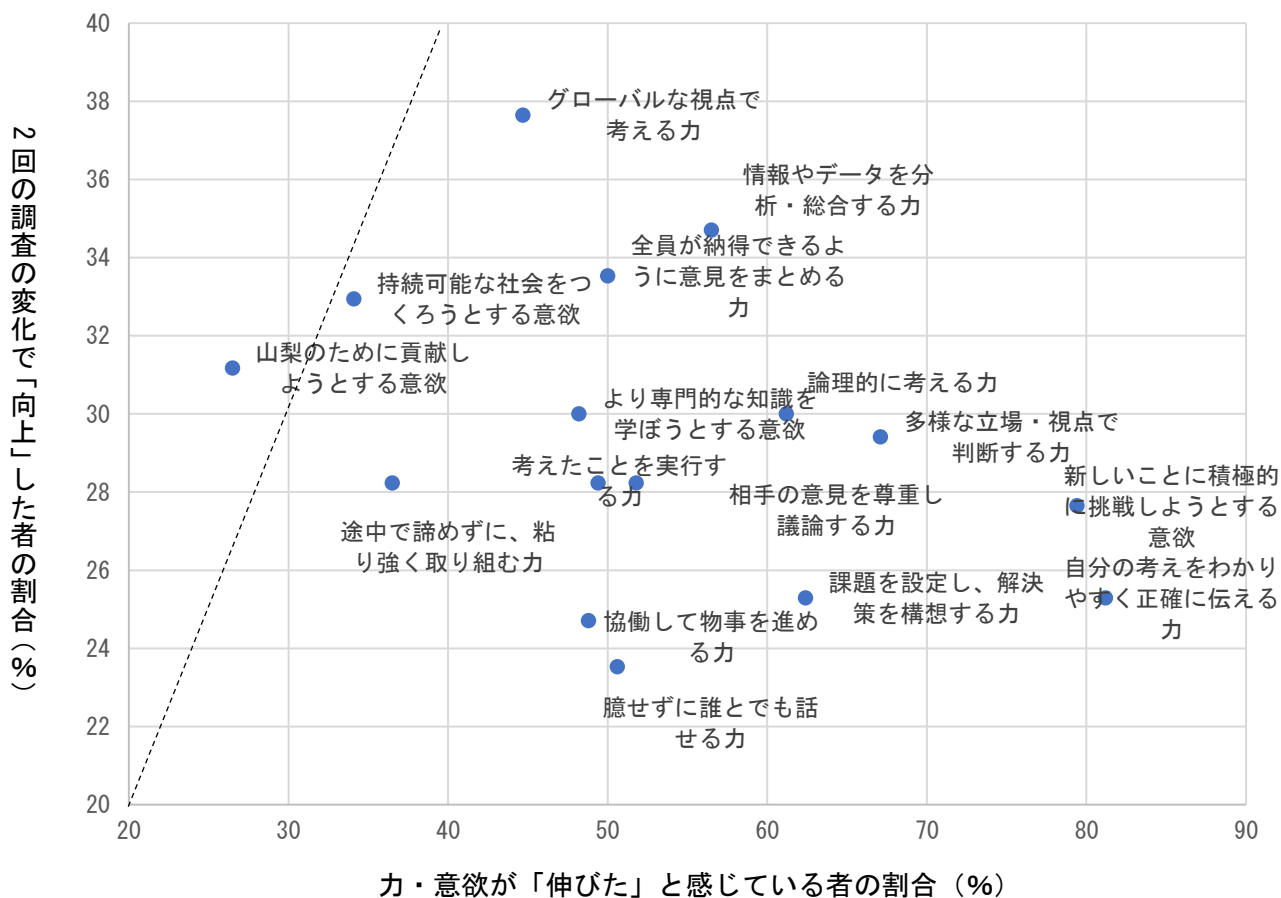


図3 主観的な力・意欲の向上との比較

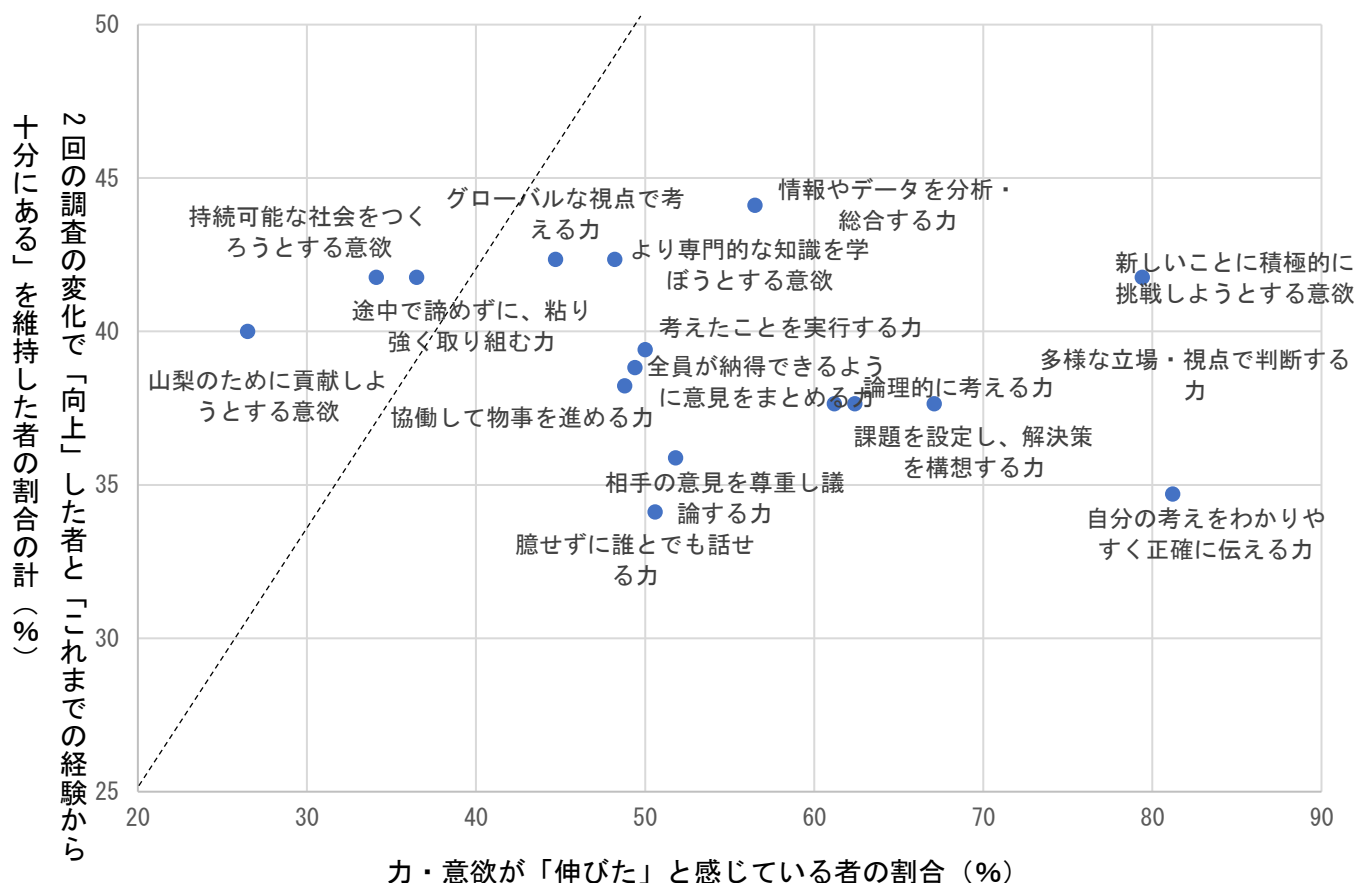


図4 主観的な力・意欲の向上との比較（向上+「これまでの経験から十分にあり」を維持した者）

4. 結果のまとめ

主観的な感想を問う振り返りの質問項目の集計結果においても、2回のアンケート調査項目を用いた分析結果においても、探究活動を通じた力・意欲が向上していることが確認された。探究活動を通じて伸びた力としては、「自分の考えをわかりやすく正確に伝える力」、「新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲」を8割近くの生徒が回答し、2回の調査問の変化の割合では、「グローバルな視点で考える力」、「情報やデータを分析・総合する力」が向上の割合が高かった。これらのことから、本事業の実施にあたり課題点として取り上げた「主体的に探究をより深化させること」と「英語で議論する力の育成」が着実に取り組まれ、その効果が現れているといえる。しかし、「山梨のために貢献しようとする意欲」を回答した生徒が少なく今後の課題である。

各講義では山梨について考える内容を設定し、探究活動では実地調査を重視し現地でのインタビューを通して山梨の魅力を再認識する機会を増やすようカリキュラムを組んでいるが、今後さらに改善が必要である。海外の高校生とのやりとりの中で、山梨の魅力を再認識するようなカリキュラム編成を検討していく。また、役割や参加した活動の有無によって向上する力・意欲の項目に違いがみられた。向上しやすい人が特定の役割につきやすい、活動に参加しやすいという選択バイアスによる見せかけの関連性の可能性もあるが、今後、これらの点について検証を進めカリキュラム研究開発に役立てていく。

令和5年度 甲府第一高等学校探究テーマ一覧

■ 1年生

班	SDGs	社会課題探究テーマ
1班		sweets for everyone スイーツはみんなを幸せにするものです。私たちは『山梨県の規格外フルーツ×御領棚田のお米』を使ってとびきり美味しいスイーツを作ります。そのスイーツを通して多くの人々を幸せにしていながら山梨県の規格外フルーツの認知度を高めていきます。その先で、県内のフードロス削減に繋げていくことを目標に活動しています。
2班		優しさを引き出すちょっと頼りないお手伝いロボ 仕事や勉強を終えてくたくたで帰ってきたとき、なんだか寂しいなと感じたことはありませんか？つらいとき誰かがそばにいてくれたらと思うことはありませんか？私たちは、そんなあなたを癒す相棒ロボットの開発をしています。みなさんの優しさを引き出すちょっとしたお手伝いをできますように。
3班		不登校の方のサイドプレイスを創る 現在、少子高齢化が進む一方で不登校の方の人数が増加傾向にある。そこで、私たちは人間関係が原因で不登校となった方に焦点を当て、そのような方の将来の見通しを明確化し、選択肢を増やすことを目標に探究している。
4班		山梨を読書県に 高校生の読書率は小中学生に比べ、著しく低下する傾向にあります。本を読むことは楽しいのはもちろん、知識を得られるなどのメリットがあります。私たちはこの課題を解決すべく、高校生を対象に本をもっと読んでもらうためにはどうすればいいかを探究しています。
5班		山梨の宝石産業で町おこし！ 皆さんは山梨の伝統産業と言ったら何を思い浮かべますか？私たちはその中でも宝石産業に着目し『宝石産業で町おこし』を探究テーマに活動を行っています。山梨の若者である、まずは一高生にスポットをあて「山梨といえば宝石だね！」と褒めていただけるような魅力を発信できるような活動を行っていきたく考えています。
6班		山梨のゆずの魅力発信 アンケートから、ゆずが好きな人が多いにもかかわらず、山梨で栽培されている「穂積のゆず」について知らない人が多いということが分かった。また、ゆず農家の高齢化が進み、人手不足に悩まされている。このような課題を解決し、山梨のゆずを日常的に使ってもらうことをゴールとして活動していく。
7班		淡水の生態系を守るには 稲作を行う日本人にとって水田は文化であり、自然とのつながりを持つ上で重要な役割を果たしていた。しかし近年水田の面積は減少し、残された水田もコンクリート化によって生物にとって住みにくい環境となってしまった。現在日本の淡水魚の42%が絶滅の危機に瀕しており、その多くが水田やその周辺水域に生息している。そういった生き物たちを保全していけるような活動をしていこうと考えている。
8班		知る見る繋げる昇仙峡 昇仙峡は甲府市にあり、私たちと馴染み深い。その一方で、私たちは昇仙峡が観光地としての賑わいが弱くなってしまったことを課題に感じている。昔は水晶や、渓谷の美しさからとても有名だったと言う昇仙峡が、当時の賑わいを取り戻し、かつ富士山などの他の観光地にも負けないように復活させ、甲府市を活性化させていきたい。
9班		親子が安心して入院生活を送れるようにする。 入院生活には困難や悩みがつきもの。もし子どもが入院するとすれば、その周囲の人にも寄り添ったサポートが必要不可欠である。私たちは、主に病院に焦点を当てて、親子が暮らしやすい、楽しい生活を実現したいと考えている。実地調査や論文をもとに情報を収集し、これからはニーズに応えた具体的な立案に踏み込んでいきたいと考えている。
10班		山梨の観光を発展させよう 今、山梨県の産業の柱である観光業の収入が低迷していることはご存じだろうか。私たちは、山梨県に来る観光客が多い一方で、観光客一人当たりの旅行消費単価が低いところに原因があると考えた。これを問題ととらえ解決することを目標とし、駅での実地調査や宿泊施設でのアンケートをもとに探究している。
11班		微生物電池の実用化計画 私たちは普段の生活で身近に使える微生物電池の普及をテーマに探究を進めている。土壌に含まれる発電菌が有機物を分解し電子を放出する性質を利用して、川の水と土を使用し発電を行っている。現段階では400mvの電圧が測定できている。今後はカーバッテリーをモデルとし、6V(スマホの充電が可能)を指標として発電量を増やすことを目標に活動を進めていく。
12班		遊びの徒～若者との遊びを通じた子どもへのロールモデル提供～ 小学生はどんな人に憧れているのでしょうか？私たちは小学生には「近未来(高校生、大学生)の自分を思い描くための見本」が少ないと考えました。そこで「子どもの身近なロールモデルをつくる」ことを目標に、目指しやすい身近な存在となる若者と小学生の、遊びを通じた楽しい交流を活発にする探究をしています。
13班		付加価値から広める地元の味 食の多様化の流れを受け、地元の味を楽しむ地産地消という意識は年々薄れつつあるのではないだろうか。その理由の一つとして「より安いものを買いたい。」という消費者意識の浸透がある。そこで私たちは安さに負けない魅力を付加価値として地元の農産物に付け、皆さんに地元の味へ手を伸ばしてもらうべく活動をしている。

■ 2年生

班	SDGs	社会課題探究テーマ
1班		Health for Everyone with Movies (映画を通じた健康維持の探究) 「映画は心のマッサージ」である。ある人はこのように映画のことを言い表しました。映画は心だけでなく、身体にも良い影響を及ぼすことが分かっています。映画という多くの人に愛される媒体を通して、みなさんの健康の向上を図ります。
2班	 	Break a Food Desert (食料品アクセス困難問題から引き起こされる健康課題の改善) 山間部や過疎地域に住む高齢者を中心に、食料品の買い物が不便や苦勞を感じる消費者が増えている。そのため、偏食などから引き起こされる健康問題が深刻化している。私たちは、この健康課題を改善させることをテーマに探究活動を行っている。
3班		Promote "Animal Welfare" in Yamanashi (山梨県でアニマルウェルフェアを広げよう) 動物たちが適切な条件で生活できるようにするための考え方であるアニマルウェルフェア(AW)。しかし、山梨県のみならず日本全体でも知っている人は少なく、AW商品の流通も同様である。そこで、ターゲット層を明確にしたブランディングを通してAWとその商品を山梨県に普及していくことを目指して私たちは探究している。
4班	 	Revitalization of Yumura Onsen! (湯村温泉の活性化) 現在の湯村温泉は、年々来客数が減少しており、以前のような活気のある様子をみることができない。そこで、一高生を対象にパンフレットを作成し、宣伝活動を行い、若者の集客方法を探究するとともに湯村温泉の活性化を目指している。
5班		「Let's reduce vacant houses!」 (空き家を減らそう!) 山梨県の空き家率は依然として増加し続けている。空き家は様々な面で問題があり早急に解決しなければならない問題の一つである。これまで街頭調査や国土交通省への取材を通して、空き家問題・空き家バンクの認知率の低さなどを痛感した。今後は処理・活用に関する情報発信や相続・処理の促進を主に行っていく
6班		Let's experience the charms of Kofu City! (山梨の魅力体験しよう～ウォーキングによる観光～) 甲府市の観光人口は、新型コロナウイルスの影響もあり、ここ数年伸び悩みの状況にあります。私たちは、甲府市の観光人口を増やすための手立ての一つとして、ウォーキングマップに注目しました。ウォーキングを通して、甲府市の魅力を体験してもらうとともに、健康増進を図っていきます。
7班		Tourism in Yamanashi for Muslims (甲府市の観光とムスリム) 現在、富士五湖地域の観光客数は甲府市の観光客数の3倍にも上る。そこで私たちは、現在世界で増加しているムスリムと、甲府市の和菓子を結びつけて考えることにした。ムスリムに和菓子をアピールする方法として、ビクトグラムを使うことを検討している。
8班	 	No Children Left Hungry (すべての子どもをまんぷくに～子供に寄り添う居場所を～) 私たちは、子どもの食格差を是正するために子ども食堂を対象に活動している。子ども食堂を子どもがいつでも利用できる場所にするために、質と量の向上を行ってきたい。そのための主な活動として運営者向けのガイドブック作成と、資金不足に悩む子ども食堂をサポートできるシステムを導入することを考えている。
9班		Preventing accidents between deer and train. (鹿と電車の衝突事故を防ぐ) 近年、JR身延線と鹿の衝突事故数の増加が懸念されている。その数は年間200件を超えており、電車の運行を阻害し、とくに、本数が少ない地域にとっては、他の移動手段も不足しているため、大きな時間ロスとなりうる。そこでわたしたちは、衝突事故防止のため、従来の対策を調べるとともに、新しい対策を打ち出していく。
10班		Saving lives with E-Call (E-Callで救う命) 近年、救急車の出場件数が増加しており、助かるはずの命が助からなくなっているのが事実である。そこで現在の状況や既存のシステムにある課題を打開すべく「E-Call」という新たなアプリケーションを作っている。
11班		Conserve and utilize the Goryo terraced rice fields (米姫プロジェクト～御領棚田の保全を目指して～) 食べることが大好きな私たち3人が目を向けたのは、米生産の場である棚田が減少しているという問題です。特に、一高から近いところにある御領棚田に着目し、そこでイベントを行ったり、大学や企業と連携したりして活動を行っています。棚田の保全を目標として、現在はスイーツという観点からアプローチをしています！
12班		Consumer Literacy Based on Catchphrases (キャッチコピーから考える消費者リテラシー) 成人年齢を迎えるにあたって、当事者となる私たち高校生が、より幅広い消費者リテラシーを身に付けるにはどうしたらよいでしょうか？私たちは、この課題を解決するために商業用キャッチコピーに着目しました。
13班		Preventing accidents in which children are left behind on a kindergarten bus (幼児のバス置き去り事故を無くすために) 2022年、静岡県で幼児がバスの中に置き去りにされ死亡する事故が発生した。置き去り防止装置の設置が義務化されたものの、事故が起きている事例もある。私たちは、取り残された際の取るべき行動を紙芝居を通して幼児に伝えることで、幼児自身が助けを呼ぶことができるのではないかと考え探究を進めている。

■ 3年生

班	SDGs	社会課題探究テーマ
1班		How to break the Negative Emotional Chain (ネガティブ連鎖を断ち切ろう！) 話し合いの際、他人の意見や話し合い自体に否定的なことばかり言う人がいると、その話し合いは良い結果を生まない。私たちは、話し合いの場にそのようなネガティブな人がいても、周囲の人の適切な対応によって話し合いを円滑に行うことができると考え、その方法について探究をしている。
2班		Inheritance of Hanko Culture (はんこ文化の継承) 山梨、日本の伝統の一つであるはんこ文化。しかし今、はんこを使う人が減っている。私たちは、改めてはんこの技術や伝統を日本人に伝え、はんこを使い続けてもらうために活動している。
3班		The Best School Schedule (最高の学校スケジュール) 歯磨きをすると集中力が上がるという驚きの事実がある。これをもとに、若い世代に歯磨き習慣を定着してもらう活動を行っている。
4班		Protect "TANADA" for future (棚田を後世へ) 目標は、棚田米だけを使ったおむすびを販売し、棚田を後世に残すこと。棚田のオーナーになり、田植えから収穫まで行い、米作りを一から学んだ。今後は、山梨県を棚田保存のモデルにし、発信して全国展開する。
5班		Green makes clean environment (グリーンカーテン) 緑化を通して地球環境を改善し緑を増やすことを目的に探究をしている。グリーンカーテンを用いて緑をより身近なものにする、グリーンカーテンの新たな形を模索する、街の景観保護 etc..... さまざまな角度からグリーンカーテンの可能性を探っていく！
6班		Small Hydropower Generation (小水力発電) 小水力発電を普及させることを目標に活動している。小水力発電とは、二酸化炭素を排出しない、環境に良い発電である。皆さん、ぜひ小水力発電機の設置を検討してください。
7班		How to reduce flooding with Seigyu (治水と減災) 約五百年前に、甲斐の武将武田信玄が考案したとされる治水事業のひとつである聖牛に注目。現在の治水事業に使用できない構造、性能、効果について調査・実験を行い、現代に生かす。
8班		Changing food waste (みんなで変えよう生ゴミ) 私達は現在の焼却処分から、堆肥化による処理法に変えることで、CO2の削減とともに生ゴミを循環させることができると考えた。そこで、甲府市への堆肥化事業の導入を大きな目標として、そのための第一歩として生ゴミの水切りを進める活動を行っている。
9班		ONIGOKKO U-100 (鬼ごっこU-100) 私たちは、年齢や障がいに関係なく、誰もが楽しめる鬼ごっこを作りたいと考えている。鬼ごっこは多くの人々に知られており、かつ幅広い可能性のあるため汎用性が高い。
10班		HERITAGE OF SHOSENKYO (知る・行く・繋げる 昇仙峡) 昇仙峡は、山梨が誇る日本でも有数の美しい景観を持つ観光スポットだが、その観光客数は数年前から横ばいでその魅力的な観光資源を有効活用できていない。そこで私たちは、主に昇仙峡の歴史の部分に着目して観光客を集める方法を探究している。
11班		We will bring you the right form of reading~Diverse reading methods to relieve stress~. (あなたに合った読書のカタチをお届けします~読書でストレス緩和を~) 読書の意義の一つに、ストレスを軽減効果ということがある。私たちはこれに着目し、読書によるストレス緩和を目指している。また、それにはまず読書の普及が不可欠であると考え、ストレス緩和の活動をするともに、読書普及の活動も行っている。
12班		Mutual Teaching (教えて学ぶ) 私たちは「教えて学ぶ」をテーマに生徒同士が互いに勉強を教え合う授業形態によってどのような効果を得ることができるかについて探究している。これまでの私たちの実験結果と大学の先生方のデータをもとに、教えるという作業は学習において効率的であることがわかった。これからは外部の企業の方や教育関係の団体と協力して、教え合いを広めていきたい。
(個人) 樋泉凜		Sado x Picture Book (茶道 x 絵本) 茶道は日本の伝統文化の一つである。この美しい日本文化を活用し、インバウンドで訪れる外国の方や、地域に住んでいる外国の方に向けて体験型の観光を行うことができれば地域の活性化につながるのではないかと考えた。

R5年度 教育課程表

教科	科目	1年 (R5入学)		2年 (R4入学)				3年 (R3入学)			
		普通科	探究科	普通科		探究科		普通科		探究科	
		文理	社会・科学	理系	文系	社会探究	科学探究	理系	文系	社会探究	科学探究
国語	現代文B							2	2	3	2
	古典B								4	4	3
	現代の国語	2	2								
	言語文化	3	3								
	論理国語			2	2	2	2				
	文学国語				2	2					
	古典探究			2	2	2	2				
	*古典研究							3			
	*現代文批評									2	
	地理歴史	世界史B								4	
日本史B								4			
地理B								3			
地理総合				2	2	2	2			3	3
地理探究											
歴史総合		2	2								
日本史探究					3						
世界史探究					3						
*歴史探究											
*日本史研究										3	
公民	現代社会								3		
	公共			2	2	2	2			3	
	倫理							3	3		3
	政治・経済							3		3	3
数学	数学Ⅰ	3									
	数学Ⅱ	1		3	3						
	数学Ⅲ			1				5			
	数学A	2		1							
	数学B			1	1						
	数学C			1	1						
	*数学研究							3			
	*総合数学A							5		5	
	*総合数学B							2			
	*総合数学C							2			
理科	科学と人間生活		2								
	物理基礎			2							
	物理			2				4			
	化学基礎	2	2								
	化学			2				4			
	生物基礎			2	2	2					
	生物			2				4			
	地学基礎				2						
	*生物基礎探究								2	2	
	*化学基礎探究								2	2	
*地学基礎探究								2	2		
*理科研究							3				
保健	体育	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	保健	1	1	1	1	1	1				
芸術	音楽Ⅰ	2	2								
	音楽Ⅱ									2	
	*音楽表現									3	
	美術Ⅰ	2	2								
	美術Ⅱ									2	
	*美術制作									3	
外国語	書道Ⅰ	2	2								
	書道Ⅱ										
	コミュニケーション英語Ⅲ							4		4	
	英語コミュニケーションⅠ	4									
	英語コミュニケーションⅡ			4	4						
	英語コミュニケーションⅢ										
	英語表現Ⅱ							2		3	
論理・表現Ⅰ	2										
論理・表現Ⅱ			2	2							
論理・表現Ⅲ											
*英語研究									4		
家庭	家庭基礎	2				2	2				
	子どもの発達と保育 フードデザイン									3	2
情報	情報Ⅰ	2	2								
	理数数学Ⅰ		5								
	理数数学Ⅱ		1			3	4			2	5
	理数数学特論					2	2			2	2
	理数物理										4
	理数化学							4			4
	理数生物							4			4
英語	英語理解									4	4
	異文化理解									3	2
	総合英語Ⅰ		4								
	総合英語Ⅱ					4	4				
	総合英語Ⅲ										
	ディベート・ディスカッションⅠ		2								
	エッセイライティングⅠ					2	2				
エッセイライティングⅡ											
探究	*歴史研究Ⅰ					3					
	*歴史研究Ⅱ									4	
	*グローバル探究Ⅰ		2								
	*グローバル探究Ⅱ					2	2				
ホームルーム活動	*グローバル探究Ⅲ									1	1
	総合的な探究の時間	1	(1) ■	1	1	(1) ■	(1) ■	1	1	(1) ■	(1) ■
合計単位数		33	34	33	33	34	34	33	33	33	33

授業を「55分」で実施するが、「50分」を1単位時間として単位認定を行う。

普通科：1年次 数学；前期で「数学Ⅰ」3単位履修を終え、後期に「数学A」2単位及び「数学Ⅱ」1単位を履修する。
 普通科：理系2年次，理科；「物理選択者」は、前期で「物理基礎」2単位履修を終え、後期に「物理」2単位を履修する。「生物選択者」も前期で「生物基礎」2単位履修を終え、後期に「生物」2単位を履修する。なお、物理選択者の「生物基礎」2単位および生物選択者の「物理基礎」2単位については、通年での履修となる。

普通科：文系3年次；「理科・英語」選択については ①生物基礎探究（2単位）＋「化学基礎探究or地学基礎探究（2単位）」又は②英語研究（4単位）のどちらかとなる。「総合数学A」を選択しない者は、各類型（人文社会・芸術・家政）の2単位及び3単位科目を選択する。

探究科：理科の必修は「科学と人間生活」および「化学基礎」の2科目で実施する。
 数学；はじめに「理数数学Ⅰ」5単位の履修を終え、その後「理数数学Ⅱ」1単位を履修する。
 ・グローバル探究Ⅰ（2単位）；2単位のうち、1単位は「総合的な探究の時間」1単位を代替する。
 ・グローバル探究Ⅱ（2単位）；2単位のうち、1単位は「総合的な探究の時間」1単位を代替する。
 ・グローバル探究Ⅲ（1単位）；総合的な探究の時間「1単位」の代替により実施する。

令和5年度指定
WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業
研究開発実践報告書・第1年次

発行 令和6年3月20日
発行者 山梨県立甲府第一高等学校
探究推進係
所在地 〒400-0007
山梨県甲府市美咲二丁目13-44
電話 055-253-3525
F A X 055-253-3527